

本格ラベル印刷ソフト BA-100 ver.2.03

Windows®対応 取扱説明書

BA-100で
どんなことができるか知りたい



BA-100を使いたい



困ったときには



本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

ご 注 意

本書の著作権およびソフトウェアに関する権利はすべてカシオ計算機株式会社に帰属します。

- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- True Typeは、Apple Computer, Inc.の米国および各国での登録商標です。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

© Copyright 2006 CASIO COMPUTER CO.,LTD. All rights reserved.

ソフトウェアの正常な使用またはバックアップコピーを作成する場合は除き、カシオ計算機株式会社の書面による同意なしには、本取扱説明書やプログラムの一部または全部を問わず、複製することを禁じます。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いいただきますようお願いいたします。また、本書はお読みになった後も大切に保管してください。

本書に関するご注意

- 本書に記載の事例を利用したことにより生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社はその責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本ソフトウェアの仕様ならびに本書の内容は、将来予告なく変更することがあります。

- 本ソフトのインストール・動作環境は、「はじめにお読みください」をご覧ください。
- BA-100は、Windows® XP/2000Professional/Me/98SE/98上で動作するアプリケーションソフトウェアです。
- 機器の構成によっては、正常に動作しない場合があります。

目次

BA-100の概要と準備	
この取扱説明書の読み方	5
本書を読む順序	5
本書での説明について	5
BA-100を使える機種について	6
本格ラベル印刷ソフトBA-100のご紹介	7
BA-100でできること	7
本格ラベル印刷ソフトBA-100	
BA-100の操作の流れ	10
ヘルプ機能について	10
BA-100の基本的な操作	11
起動する	11
開く	11
新規保存する	12
上書き保存する	13
閉じる	13
終了する	13
レイアウト作成の流れ	13
接続機種を設定する	14

新しいレイアウトを作成する	14
テープのレイアウトを設定する	14
ディスクのレイアウトを設定する	15
レイアウト作成画面について	16
メニューバーについて	17
プルダウンメニュー	17
レイアウト画面のバーとグリッドについて	20
ツールバー	20
ステータスバー	23
グリッドの表示	23
キーを使った操作について	24
ショートカットキー	24
キーによるフィールドの移動	24
フィールドについて	25
5つのフィールド	25
共通の操作	26
文字を挿入する	27
文字を修正・編集・削除する	28
フィールド内の文字を修正する	28
フィールド内の文字を編集する	28
文字フィールドを削除する	28
よく使う文字を簡単に入力する	29
文字パネルへ登録する	29
パネルから文字を挿入する	30
文字パネルから文字を削除する	30

画像を挿入する	31
パネルから画像を挿入する	31
ファイル名を指定して画像を挿入する	31
パソコンの画面を取り込む(キャプチャー)	32
画像を差し替える・編集する	33
フィールド内の画像を差し替える	33
画像のサイズと角度を調整する	33
画像フィールドを削除する	33
画像を加工する・作成する	33
ペイントツールを起動する・終了する	33
ペイントツールのメニューバー	34
ペイントツールのツールバー	35
描画ツール	36
画像のモノクロ化を設定する	37
画像をパネルへ登録する・削除する	38
画像をパネルへ登録する	38
画像パネルから画像を削除する	39
図形を挿入する	40
図形を差し替える・編集する	41
フィールド内の図形を差し替える	41
フィールド内の図形を編集する	41
図形フィールドを削除する	41
バーコードを挿入する	42
バーコードの仕様	43

バーコードを修正・編集・削除する	44
フィールド内の文字や数字を修正する	44
バーコードのサイズや規格を編集する	44
バーコードフィールドを削除する	45
QRコードを挿入する	46
QRコードを修正・編集・削除する	48
フィールド内の文字や数字を修正する	48
QRコードの設定を編集する	48
QRコードフィールドを削除する	49
フィールドを配置する・サイズを合わせる	50
フィールドの配置・サイズ合わせとは	50
フィールドを選択する	50
フィールドを配置する・サイズ合わせをする	51
差込機能について	52
差込機能とは	52
操作の流れ	52
差込用データベースを作成する	53
差込データベースツールを起動する・終了する	53
差込データベースツールのメニューバー	53
差込データベースツールのツールバー	54
差込データベースを新規作成する	54
差込データベースを流用作成する	55
フィールドを差込設定する	56
差込内容を確認する	58
印刷するときの注意事項	59

印刷する	60
テープに印刷する	60
ディスクに印刷する	62
テープに差込印刷する	63
テープ送りをする・テープをカットする	64
内蔵画像ライブラリー一覧	65
数字フォント一覧	65
ラベル作成のヒント	66
縦書きラベルを作成するときは	66
テープカートリッジの幅以上のラベルを 作成するときは	66

BA-100の付録

ソフト操作時のトラブルについて	68
印刷時のトラブルについて	69
エラーメッセージ一覧	71
本ソフト使用時のトラブルについて	72
ファンシーテープ	74
テープカートリッジをセットする	74
ラベルを作成する	74

BA-100の概要と準備

この取扱説明書の読み方

本書を読む順序

- ①最初に、「概要と準備」(5～8ページ)をご覧ください。概要や必要な環境などの確認、またソフトのインストールなどをしてください。
- ②印刷するときは「BA-100の操作の流れ」(10ページ)からご覧ください。

本書での説明について

■Windows自体の説明はしていません

本書は「BA-100」(Windows版)の取扱説明書です。本ソフトは、Windows® XP/2000Professional/Me/98SE/98(以後Windowsと記述します)上で動作するアプリケーションソフトであり、本書では、Windowsそのものの操作については説明していません。本書は、本ソフトをご使用になるお客様が、少なくとも以下のようなWindowsの基本操作に習熟されていることを前提として書かれております。

- クリック、ダブルクリック、右クリック、ドラッグ、ドラッグ・アンド・ドロップなどのマウス操作
- マウスによるメニュー操作
- キーボードによる文字入力
- Windowsに共通のウィンドウ操作

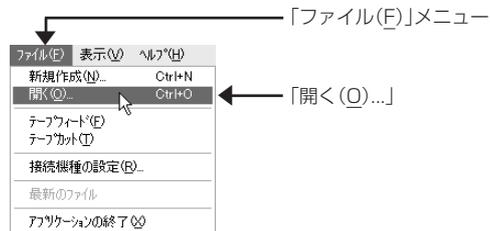
これらWindowsの基本的な操作に関しましては、お手持ちのパソコンまたはWindowsパッケージ付属の取扱説明書をご覧ください。

BA-100には、操作中に操作方法や注意事項を画面上で確認できる「ヘルプ機能」がっています(10ページ)。本書では、詳しい操作方法を「ヘルプ機能」に委ね、基本的な操作方法だけを記載している箇所があります。

■メニュー/ボタン操作の表記について

本書でのすべての操作は、マウスを使用することを前提としています。

- メニューあるいはコマンドの操作方法は、次のような形で表記しています。



「ファイル(F)」メニューから「開く(O)...」をクリックします。

- ダイアログボックス中のボタンは次のような形で表記します。



[OK]をクリックします。

■キー操作の表記について

本ソフトでは、マウスの操作とキーボードでのキー操作を併用することがあります。使用するキーには"Ctrlキー"、"Shiftキー"、"Altキー"があります。本書ではこれらのキーを[Ctrl]キー、[Shift]キー、[Alt]キーとそれぞれ表記します。これらのキーは、AやBといったアルファベットキーと併用される場合もあります。

■表示画面について

- 本書中で使用している表示画面は、実際の画面と若干異なる場合がありますが、表示内容そのものが異なるということはありません。あらかじめご了承ください。
- 本書記載の画面は、Windows XPを例に説明しております。その他のOSでは、本書記載の画面と異なることがあります。

BA-100を使える機種について

BA-100は、次の機種から印刷することができます。

●BA-100から印刷できる機種

KL-V400 EL-700 EL-5000W KL-A50E
KL-E11 KL-E20 KL-M20 KL-S30
KLD-300 KLD-700

- 実際に印刷するためには、機種に対応したプリンタードライバーがインストールされている必要があります。
KL-V400用、KL-M20用、KLD-300用、KLD-700用のプリンタードライバーはそれぞれの機種に同梱の「はじめにお読みください」をご覧ください。インストールしていただき、インストールしていただき、インストールしてください。
また、後からプリンタードライバーを追加するときには、それぞれの機種の「プリンタドライバ取扱説明書」の「プリンターの追加方法」をご覧ください。

本格ラベル印刷ソフトBA-100のご紹介

BA-100は、ラベルやディスクなどに印刷する内容を、パソコンで作成するソフトです。

BA-100では、プリンターのプロパティを設定せずに、アプリケーションで設定したレイアウト通りに印刷できます。

- ディスク印刷ができるのは、以下の機種です。
KLD-300 KLD-700

BA-100でできること

BA-100を使うと、オリジナリティ溢れるラベルを作成することができます。



- 複雑なデザインのラベルが作成できます。



- 作成した内容は、ファイルとして保存しておくことができます。
 - パソコンに搭載されている文字(True Type®フォントのみ)で印刷できます。
 - ほかのアプリケーションで作成した画像(拡張子が「.bmp」「.wmf」「.cam」「.tif」「.dib」「.emf」「.eps」「.fpx」「.jpg」「.pcd」「.pct」「.png」の画像)を印刷できます。(「画像を挿入する」31ページ参照)
 - 簡単な図形を作成して印刷できます。(「図形を挿入する」40ページ参照)
 - 現在表示している画面を取り込んで、ラベルを作成することができます。(「パソコンの画面を取り込む(キャプチャー)」32ページ参照)
 - 背景に画像を入れて文字を印刷できます。(「タイル表示」ヘルプ参照)
 - 異なる内容を同じフォーマットで連続して印刷できます。(「差込機能について」53ページ参照)
-
- デザインが同じで内容だけがちがうラベルを、簡単に作成できます。
 - Microsoft® Excelなどのデータを利用して連続して印刷できます。(「差込データベースを流用作成する」56ページ参照)

	製品番号	管理者
1	001	吉田
2	002	岡本
3	003	山田



- BA-100プログラムをインストールすると、144個のBMP形式のイラストデータ(内蔵画像)がインストールされます。
- BMP形式のイラストデータを使用できます。
イラスト：19分類 923個(重複を含む)
スタンプ：32個
- 「はじめにお読みください」をご覧になり、同梱のCD-ROMから「画像集」をインストールしてください。

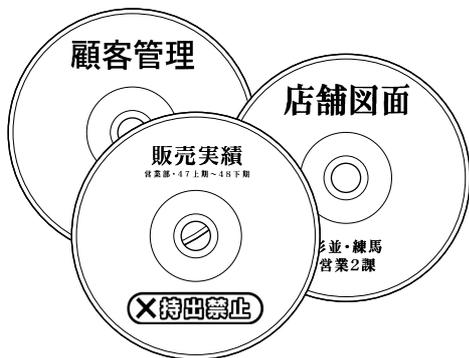
- バーコードが作成できます。



- QRコードが作成できます。



- テラプレイアウトと同じ操作で、CD-RやDVD-Rなどのタイトルレイアウトをすることができます。(対応機種：KLD-300 KLD-700)

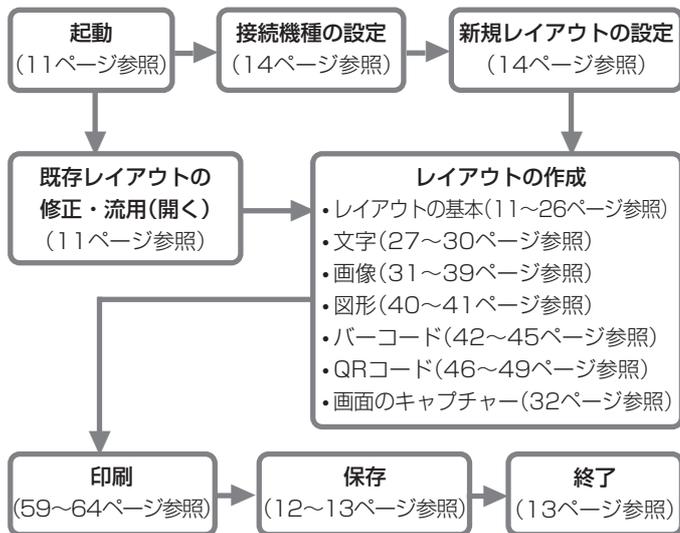


本格ラベル印刷ソフト BA-100

BA-100の操作の流れ

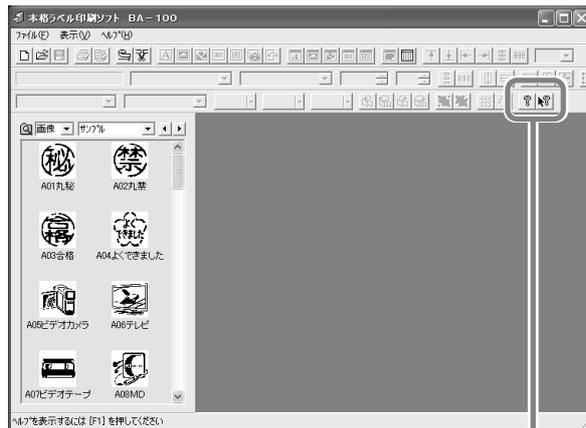
ここでは、BA-100のラベルの内容を作成するときの全体的な操作の流れを理解してください(詳しい操作方法は、それぞれのページで説明しています)。

テープやディスクに印刷する内容を**レイアウト**といいます。レイアウトは、文字・画像・図形・バーコード・QRコードを自由に組み合わせで作成します。



ヘルプ機能について

BA-100には「ヘルプ機能」がついています。操作している途中に、画面上で操作方法や注意事項を確認できます。



ヘルプピックを表示する。



ポップヒント(「メニューコマンド」や「画面の構成要素のヒント」)を表示する。

BA-100の基本的な操作

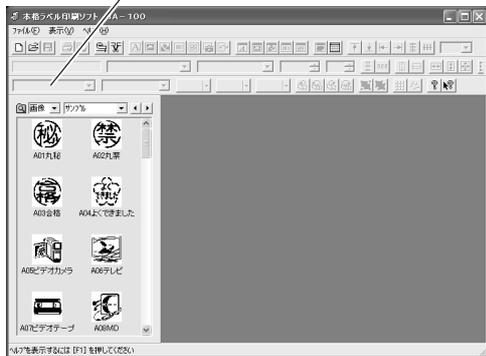
BA-100の「起動」「(既存レイアウトを)開く」「新規保存」「上書き保存」「(作成中のレイアウトを)閉じる」「終了」について説明します。

起動する

1 アイコンをダブルクリックする。

- 次のようにしても起動することができます。
 - (1) Windows® XP/2000Professional/Me/98SE/98の[スタート]ボタンをクリックします。
 - (2) 「プログラム(P)」にポインタを合わせてから、「CASIO」→「ラベル印刷ソフト BA-100」にポインタを合わせます。
 - (3) 表示された「BA-100」をクリックします。

実際のソフトではここにプリンターの機種名が表示されます。
本書では機種名の表示は省略します。



起動画面

- 起動後、初めてお使いになるときは、「レイアウト作成の流れ」(13ページ)をご覧ください。

開く

既存のレイアウト画面(ファイル)を開きます。

- BA-100で作成したレイアウトの拡張子は「.lyc」です。

■作成したときとは異なる機種でレイアウトファイルを開いた場合
「レイアウトファイルを作成したときに接続していた機種」と異なる機種を接続してレイアウトファイルを開くと、機種間での余白の長さの違いや、印刷密度の違いにより若干レイアウトがずれることがあります。ずれが生じた場合はレイアウトを修正してください。

1 「ファイル(F)」メニューから「開く(O)...」をクリックするか、 アイコンをクリックする。

ファイルを選択できる画面が表示されます。

2 開きたいレイアウト名(ファイル名)をクリックして、[開く(O)]をクリックする。

選択したレイアウト画面が表示されます。

他のパソコンリンクソフトのファイルを開くときは

BA-100は、パソコンリンクソフト「FA-700」「FA-720」「FA-750」「FA-770」「FA-775」「FA-1000C」「FA-1100C」「FA-1100」で作成したファイルを活用することができます。

・FA-700/FA-720/FA-750/FA-770/FA-775で作成されたレイアウト(ファイル)を読み込んだ場合の制約

○文字データ：スタイルは標準、塗りつぶしパターンはベタ、レイアウトはストレート、背景は透過になります。

○画像データ：そのまま読み込まれます。(bmp, cam, tif, wmfデータ)

○図形・画像(上記の画像データを除く)・フレーム・背景用図形データ・差込データは配置できません。

・それぞれのソフトで作成したレイアウト(ファイル)の拡張子は、下記のとおりです。

FA-700：.lay

FA-720・FA-750・FA-770・FA-775：.lyt

FA1000C・FA1100C：.lyc

・BA-100/FA-1000C/FA-1100C/FA-1100で作成したレイアウト(ファイル)は、FA-700・FA-720・FA-750・FA-770・FA-775では読み込みできません。

・また、本ソフトで作成したファイルにバーコードフィールドやQRコードフィールドが含まれるときにはバーコードフィールドやQRコードフィールド部分は読み込まれません。

新規保存する

新規で作成したレイアウトを保存します。また、別名で保存したい場合もこの手順を使います。

1 「ファイル(F)」メニューから「名前を付けて保存(A)...」をクリックする。



2 レイアウト名(ファイル名)を入力する。

・拡張子は「.lyc」となります。

3 入力内容を確認し「保存(S)」をクリックする。

中止する場合は「キャンセル」をクリックします。

上書き保存する

すでに保存してあるレイアウト画面を上書き保存します。

- 1 「ファイル(F)」メニューから「上書き保存(S)」をクリックするか、もしくは  アイコンをクリックする。

レイアウトが保存されます。

閉じる

- 1 「ファイル(F)」メニューから「閉じる(C)」をクリックする。

作成中のレイアウトが閉じます。

- ・作成中のレイアウトが保存されていないと、メッセージが表示されます。保存するかしないかを選択してください。

終了する

- 1 「ファイル(F)」メニューから「アプリケーションの終了(X)」をクリックする。

本ソフトが終了します。

- ・終了時に作成中のレイアウトが保存されていないと、メッセージが表示されます。保存するかしないかを選択してください。

レイアウト作成の流れ

レイアウトとは、テープやディスクに印刷する内容のことです。ここでは、レイアウトを作成するときの流れを理解してください(詳しい操作方法は、それぞれのページで説明しています)。

レイアウトのサイズ設定

レイアウトの形とサイズは、印刷する機種に応じて設定できます。

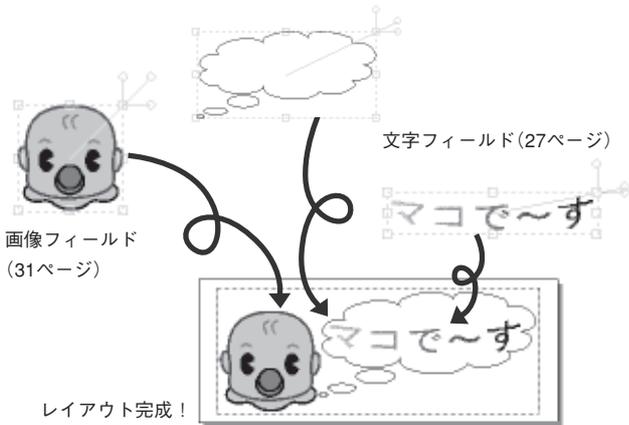
- ・接続機種を設定する (14 ページ参照)
- ・新しいレイアウトを作成する (14 ページ参照)



レイアウトの作成

レイアウトは、フィールドと呼ばれるパーツを組み合わせて作成します。

図形フィールド (40 ページ)



- ・バーコードフィールド、QRコードフィールドもあります (42、46 ページ参照)。

接続機種を設定する

BA-100で作成したレイアウトを、どの機種で印刷するのか設定します。

重要! 設定する機種によって、作成できるレイアウトのサイズは異なります。レイアウトの作成を始める前に必ず設定してください。

1 「ファイル(F)」メニューから「接続機種の設定(R)...」をクリックする。

2 機種名、印刷先を設定する。

KL-V400を設定する場合



ここをクリックすると機種が設定できます

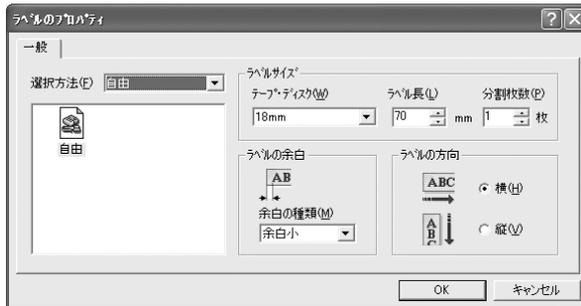
3 [OK]をクリックする。

新しいレイアウトを作成する

新しいレイアウトを作成する画面を開きます。

テープのレイアウトを設定する

1 「ファイル(F)」メニューから「新規作成(N)...」をクリックする。



2 「テープ・ディスク(W)」ボックスから印刷するテープ幅を選択する。

- 機種によっては、3.5ミリ幅テープと9ミリ幅テープを区別できないものがあります。
プリンターに装着されたテープ幅を選択してください。

3 「ラベル長(L)」ボックスで、ラベルの長さを設定する。

- 4 テープの幅以上のラベルを作るときには、「分割枚数(P)」ボックスで、何枚に分割するかを設定する。
ラベル作成のヒント(66ページ)をご覧ください。

5 「ラベルの余白」を設定する。

- ・「余白」とは、ラベルの前後につくスペースのことです。
- ・「余白」は、機種または印刷時の設定によっては設定できません。
- ・「余白」の設定によって送られるテープの長さは、印刷する機種により異なります。
- ・KL-E11/KL-E20をお使いの場合は、「余白」は「大」のみで変更できません。

機種 \ 設定	大	中	小
KL-E11/KL-E20	約16mm	—	—
EL-5000W(ネームランドテープ)/KL-A50E	約18.8mm	約10mm	約3mm
KL-M20/KLD-700L/EL-700/KL-S30	約19.3mm	約10mm	約3mm
KLD-300	約21.5mm	約10mm	約3mm
KL-V400	約21mm	約10mm	約3mm

6 「ラベルの方向」を設定する。

- ・「ラベルの方向」では、レイアウト作成画面を横置きで表示するか、縦置きで表示するかを指定します。縦置きのラベルを作成するときは、ラベル作成のヒント(66ページ)をご覧ください。

7 [OK]をクリックする。

ディスクのレイアウトを設定する

- 1 「ファイル(F)」メニューから「新規作成(N)...」をクリックする。
- 2 「テープ・ディスク(W)」ボックスから、「ディスク」を選択する。
- 3 [OK]をクリックする。

編集集中にレイアウトの設定を変更するには

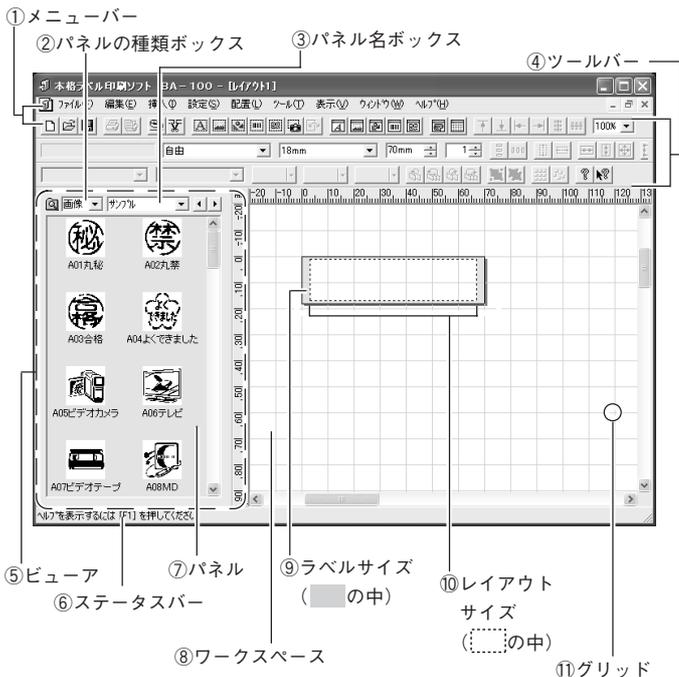
下記のいずれかの方法をお使いください。

- ・「設定(S)」メニューから「ラベル(L)...」をクリックして、各項目を設定します。
- ・をクリックして、各項目を設定します。
- ・ツールバーに表示されている各項目を、直接、設定します(「ツールバー(設定項目)」22ページ参照)。

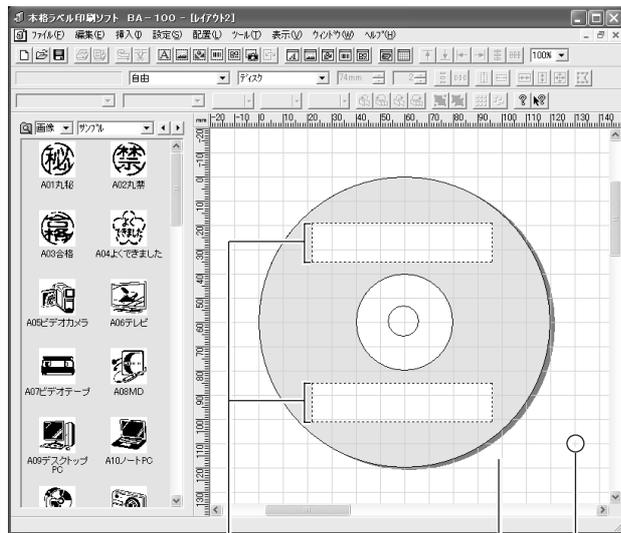
レイアウト作成画面について

レイアウト作成画面について説明します。

■テープのレイアウト作成画面



■ディスクのレイアウト作成画面(対応機種：KLD-300 KLD-700)



- ビューアとワークスペースは、設定によって表示が異なることがあります。

①メニューバー(このページ右側参照)

②パネルの種類ボックス

パネルに表示されているフィールドの種類が表示されます。

③パネル名ボックス

パネルに表示されているフィールドの分類が表示されます。

④ツールバー(20ページ参照)

⑤ビューア

「パネルの種類ボックス」「パネル名ボックス」「パネル」の総称です。

⑥ステータスバー(23ページ参照)

簡単なヘルプメッセージや選択されているフィールドの情報を表示します。

⑦パネル(29・31・40ページ参照)

登録されているフィールドが表示されます。

⑧ワークスペース

レイアウトを作成する領域です。

⑨ラベルサイズ

実際に作成されるラベルの大きさです。

⑩レイアウトサイズ

印刷可能範囲です。フィールドはこの中に収まるように配置してください。

⑪グリッド(23ページ参照)

ワークスペース上に一定間隔で並んだ格子です。フィールドのサイズや配置を決めるときの目安にすると便利です。

メニューバーについて

メニューバーのプルダウンメニューについて説明します。

プルダウンメニュー

プルダウンメニューから、マウスで操作します。

メニュー	機能
■「ファイル(F)」メニュー	
「新規作成(N)...」	新規レイアウト画面を作成する。
「開く(O)...」	レイアウト画面(ファイル)を開く。
「閉じる(C)」	編集中のレイアウト画面を閉じる。
「上書き保存(S)」	レイアウト画面を上書き保存する。
「名前を付けて保存(A)...」	レイアウト画面に新しく名前を付けて保存する。
「ラベルプリンターで印刷(P)...」	編集中のレイアウトを印刷する。
「ラベルプリンターで差込印刷(M)...」	編集したレイアウトに自動的にデータを差し込んで印刷する。
「テーブルフィールド(F)」	テーブル送りをする。
「テーブルカット(T)」	テーブルをカットする。
「印刷プレビュー(V)...」	編集中のレイアウトの印刷イメージを表示する。
「差込プレビュー(G)...」	編集中のレイアウト画面に実際に差込まれた状態を表示する。[OK]をクリックすると、その状態の文字が実際に差込まれる。

メニュー	機能
「接続機種の設定(R)...」	接続する機種などを設定する。
「1 XXXX.lvc」	以前に開いたレイアウト画面を開く。
「アプリケーションの終了(X)」	BA-100を終了する。
■「編集(E)」メニュー	
「元に戻す(U)」	直前の状態に戻す。
「やり直し(R)」	直前に元に戻した状態をやり直す。
「切り取り(T)」	選択された範囲のフィールドを切り取る。
「コピー(C)」	選択された範囲のフィールドをコピーする。
「貼り付け(P)」	コピー、カットしたフィールドを貼り付ける。
「削除(A)」	選択された範囲のフィールドを削除する。
「複製(D)」	選択された範囲のフィールドをもう1つ作成する。
「すべてを選択(L)」	レイアウト上のすべてのフィールドを選択する。
■「挿入(I)」メニュー	
「文字(T) ...」	文字を挿入する。
「画像(G) ...」	画像を挿入する。
「図形(S) ...」	図形を挿入する。

メニュー	機能
「バーコード(B) ...」	バーコードを挿入する。
「QRコード(Q) ...」	QRコードを挿入する。
「画面キャプチャー(C) ...」	パソコンに表示されている画面を取り込む。
「選択フィールドの変更(X) ...」	選択されたフィールドの内容を変更する。
■「設定(S)」メニュー	
「文字(T) ...」	文字のプロパティを設定する。
「画像(G) ...」	画像のプロパティを設定する。
「図形(S) ...」	図形のプロパティを設定する。
「バーコード(B) ...」	バーコードのプロパティを設定する。
「QRコード(Q) ...」	QRコードのプロパティを設定する。
「画面キャプチャー(C) ...」	画面キャプチャーのプロパティを設定する。
「ラベル(L) ...」	ラベルやディスクのプロパティを設定する。
「ワークスペース(W) ...」	ワークスペースのプロパティを設定する。
「図形変形(P)」	線分の区切り(ポイント)を表示し、図形を変形できる状態にする。
■「配置(L)」メニュー	
「整列(A)」	次の6つのメニューを表示する。

メニュー	機能
－「上端へ揃える(T)」	選択されたフィールドを上端へ揃えて配置する。
－「下端へ揃える(B)」	選択されたフィールドを下端へ揃えて配置する。
－「左端へ揃える(L)」	選択されたフィールドを左端へ揃えて配置する。
－「右端へ揃える(R)」	選択されたフィールドを右端へ揃えて配置する。
－「縦積み(V)」	選択されたフィールドを垂直方向の中心線に位置合わせして整列する。
－「横並び(H)」	選択されたフィールドを水平方向の中心線に位置合わせして整列する。
「均等配置(V)」	次の2つのメニューを表示する。
－「垂直方向(V)」	選択されたフィールドを垂直方向に等間隔に配置する。
－「水平方向(H)」	選択されたフィールドを水平方向に等間隔に配置する。
「中央配置(C)」	次の2つのメニューを表示する。
－「垂直方向(V)」	選択されたフィールドを上下方向にセンタリングする。
－「水平方向(H)」	選択されたフィールドを左右方向にセンタリングする。
「サイズ合わせ(S)」	次の3つのメニューを表示する。
－「幅(W)」	選択されたフィールドの幅を同じサイズに設定する。
－「高さ(H)」	選択されたフィールドの高さを同じサイズに設定する。
－「幅と高さ(B)」	選択されたフィールドの幅と高さを同じサイズに設定する。

メニュー	機能
「前面へ移動(R)」	選択されたフィールドを、1つ前に移動する。
「最前面へ移動(F)」	選択されたフィールドを、一番前に移動する。
「背面へ移動(K)」	選択されたフィールドを、1つ後ろに移動する。
「最背面へ移動(B)」	選択されたフィールドを、一番後ろに移動する。
「グループ(G)」	選択されたフィールドを、1つのグループにする。
「グループ解除(U)」	選択されたグループを解除する。
「タイル(T)」	選択されたフィールドをレイアウト上に背景としてマス目状に並べる。
「タイル解除(L)」	タイルを解除する。
■「ツール(T)」メニュー	
「ペイント(P)」	専用の図形描画ツールを起動する。
「差込データベース(D)」	差込印刷用のデータベースを作成する。
■「表示(V)」メニュー	
「ツールバー(T)」	ツールバーを表示/非表示にする。
「ステータスバー(S)」	ステータスバーを表示/非表示にする。
「ビューア(V)」	ビューアを表示/非表示にする。
「ズーム(Z)」	次の5つのメニューを表示する。

メニュー	機能
-[400%]	ワークスペースを400%で表示する。
-[200%]	ワークスペースを200%で表示する。
-[100%]	ワークスペースを等倍で表示する。
-[75%]	ワークスペースを75%で表示する。
-[50%]	ワークスペースを50%で表示する。
■「ウィンドウ(W)」メニュー	
「重ねて表示(C)」	複数のレイアウト画面を開いているときに、レイアウト画面を重ねて表示する。
「上下に並べて表示(H)」	複数のレイアウト画面を開いているときに、上下に並べて表示する。
「左右に並べて表示(T)」	複数のレイアウト画面を開いているときに、左右に並べて表示する。
「アイコンの整列(A)」	ウィンドウの下部にアイコン化したレイアウト画面を整列する。
「すべてのウィンドウを閉じる(L)」	開いているすべてのウィンドウを閉じる。
「[1] XXXX.lyc」	現在開いているレイアウトを選択してアクティブ化する。
■「ヘルプ(H)」メニュー	
「トピックの検索(H)」	トピックの検索画面を表示する。
「バージョン情報(A)...」	バージョン情報を表示する。

レイアウト画面のバーとグリッドについて

レイアウト画面のツールバー・ステータスバー・グリッドについて説明します。

ツールバー

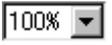
- ツールバーが表示されていないときは、「表示(V)」メニューから「ツールバー(T)」をクリックすると表示されます。
- ツールバーにポインタを合わせると、その機能の簡単な説明がステータスバーに表示されます。別な場所にポインタを移動すると、説明は消えます。

■ ツールバー(ツールアイコン)

ツールアイコンをクリックすると、それぞれの機能に応じて、ウィンドウを表示することや操作を実行することができます。

ツールアイコン	機能
	新規レイアウト画面を作成する。
	レイアウト画面を開く。
	レイアウト画面を保存する。
	編集中のレイアウトを印刷する。
	編集中のレイアウトの印刷イメージを表示する。
	テーブル送りをする。
	テーブルをカットする。
	文字フィールドを挿入する。

ツールアイコン	機 能
	画像フィールドを挿入する。
	図形フィールドを挿入する。
	バーコードフィールドを挿入する。
	QRコードのフィールドを挿入する
	表示されている画面を取り込んで(キャプチャーして)、図形として挿入する。
	選択されたフィールドの内容を変更する。
	文字のプロパティを設定する。
	画像のプロパティを設定する。
	図形のプロパティを設定する。
	バーコードのプロパティを設定する。
	QRコードのプロパティを設定する。
	ラベルのレイアウトのプロパティを設定する。
	ワークスペースのプロパティを設定する。
	選択されたフィールドを上端を揃えて配置する。
	選択されたフィールドを下端を揃えて配置する。
	選択されたフィールドを左端を揃えて配置する。
	選択されたフィールドを右端を揃えて配置する。

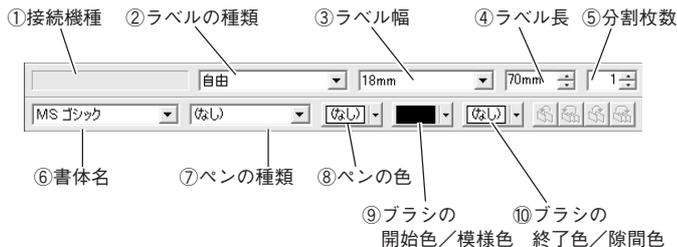
ツールアイコン	機 能
	選択されたフィールドを垂直方向の中心線に位置合わせて整列する。
	選択されたフィールドを水平方向の中心線に位置合わせて整列する。
	表示倍率を設定する。
	選択されたフィールドを垂直方向に等間隔に配置する。
	選択されたフィールドを水平方向に等間隔に配置する。
	選択されたフィールドをテーブル内で上下方向の中心にセンタリングする。
	選択されたフィールドをテーブル内で左右方向にセンタリングする。
	選択されたフィールドの幅を同じサイズに設定する。
	選択されたフィールドの高さを同じサイズに設定する。
	選択されたフィールドの幅と高さを同じサイズに設定する。
	線分のポイント(区切り)を表示し、図形を变形できる状態にする。
	選択されたフィールドを1つ前に移動する。
	選択されたフィールドを1番前に移動する。
	選択されたフィールドを背面へ移動する。
	選択されたフィールドを1番後ろに移動する。
	選択されたフィールドを1つのグループにする。
	選択されたグループを解除する。

ツールアイコン	機能
	選択されたフィールドをレイアウト上に背景としてマス目状に並べる。
	マス目状に並べたフィールドを元に戻す。
	ヘルプトピックを表示する。
	ポップヒント(「メニューコマンド」や「画面の構成要素のヒント」)を表示する。

■ ツールバー(設定項目)

設定項目をクリックすると、それぞれの項目を変更できます。

- 接続機種を変更するときは、「接続機種を設定する」(14ページ参照)をご覧ください。
- レイアウトによっては、設定を変更できない項目もあります。



① 接続機種

「接続機種を設定する」で設定した機種名が表示される。(14ページ)

- 本書では機種名の表示は省略いたします。

② ラベルの種類

ラベルの種類を設定する。

③ ラベル幅

ラベルの幅やディスクを設定する。

④ ラベル長

ラベルの長さを設定する。

⑤ 分割枚数

何枚のラベルを組み合わせて1つのレイアウトにするのか設定する。

⑥ 書体名

文字フィールドの書体を設定する。

⑦ ペンの種類

図形の線の種類、文字の縁の線の種類を設定する。

⑧ ペンの色

図形、文字の線の色を設定する。

⑨ ブラシの開始色/模様色

図形、文字にグラデーションをかけるとき、開始する色を設定する。/ 図形の模様を指定したときの模様色を設定する。

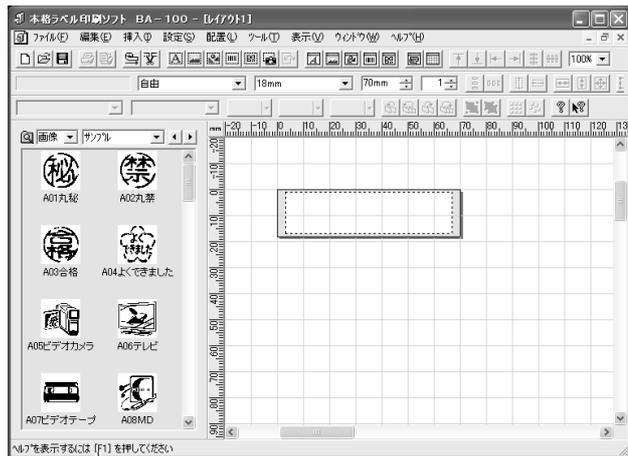
⑩ ブラシの終了色/隙間色

図形、文字にグラデーションをかけるとき、終了する色を設定する。/ 図形の模様を指定したときの隙間色を設定する。

ステータスバー

メニューの簡単なヘルプメッセージや選択されているフィールドの情報を表示します。

- ステータスバーの表示/非表示は「表示(V)」メニューの「ステータスバー(S)」をクリックして切り替えます。

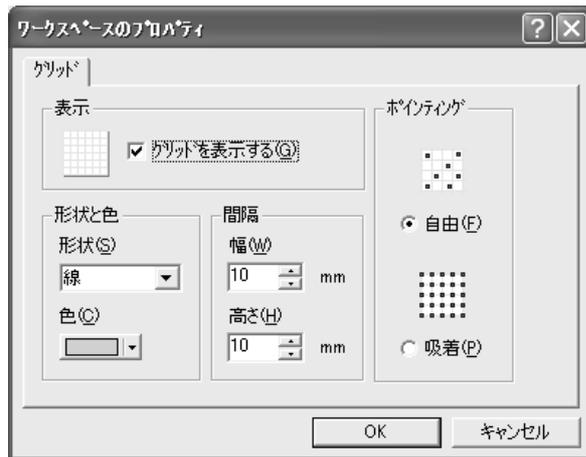


ステータスバー

グリッドの表示

ワークスペース上に、一定間隔で並んだ格子をグリッドといいます。グリッドは、間隔を変えることや非表示にすることができます。

- 1 「設定(S)」メニューから「ワークスペース(W)...」をクリックするか、をクリックする。



- 2 各項目を設定する。

- 3 [OK]をクリックする。

キーを使った操作について

キーボードから操作できることを説明します。

•このページでは、2つのキーを同時に押すことを「+」で表現しています。

例：[Ctrl]キーと[A]キーをいっしょに押すとき
→「[Ctrl]+[A]キー」と表現しています。

ショートカットキー

キーボードから、ショートカットキーで操作します。

キー	機能
[Delete]	選択されたフィールドを削除する。
[Ctrl]+[A]	レイアウト上のすべてのフィールドを選択する。
[Ctrl]+[D]	選択された範囲やフィールドをもう1つ作成する。
[Ctrl]+[N]	新規レイアウト画面を作成する。
[Ctrl]+[O]	レイアウト画面を開く。
[Ctrl]+[P]	編集中のレイアウトを印刷する。
[Ctrl]+[S]	レイアウト画面を上書き保存する。
[Ctrl]+[X]	選択されたフィールドをカットする。
[Ctrl]+[C]	選択されたフィールドをコピーする。
[Ctrl]+[V]	コピー、カットしたフィールドを貼り付ける。
[Ctrl]+[Z]	直前の状態に戻す。
[Ctrl]+[+]	表示をズームインする。
[Ctrl]+[-]	表示をズームアウトする。

キーによるフィールドの移動

キー操作でフィールドを移動することができます。

•フィールドを選択するときは、そのフィールドをクリックします。

キー	機能
[↑]	選択されたフィールドを、上方向へ細かく移動する。
[↓]	選択されたフィールドを、下方向へ細かく移動する。
[←]	選択されたフィールドを、左方向へ細かく移動する。
[→]	選択されたフィールドを、右方向へ細かく移動する。
[Ctrl]+[↑]	選択されたフィールドを上方向へ移動する。
[Ctrl]+[↓]	選択されたフィールドを下方向へ移動する。
[Ctrl]+[←]	選択されたフィールドを左方向へ移動する。
[Ctrl]+[→]	選択されたフィールドを右方向へ移動する。
[Tab]	次のフィールドを選択する。
[Shift]+[Tab]	前のフィールドを選択する。
[Home]	選択されたフィールドをレイアウトの左のすみまで移動する。
[End]	選択されたフィールドをレイアウトの右のすみまで移動する。
[Ctrl]+[Home]	選択されたフィールドをレイアウトの左上のすみまで移動する。
[Ctrl]+[End]	選択されたフィールドをレイアウトの右下のすみまで移動する。

フィールドについて

レイアウトを構成するパーツのことを、**フィールド**といいます。ここでは、各フィールドの特徴と、フィールドに共通の操作を説明します。

5つのフィールド

■フィールドの種類

文字・画像・図形・バーコード・QRコードを挿入すると、それらは「文字フィールド」「画像フィールド」「図形フィールド」「バーコードフィールド」「QRコードフィールド」に囲まれてレイアウトに挿入されます。

文字フィールド：入力した文字を囲むフィールドです。

画像フィールド：画像を囲むフィールドです。

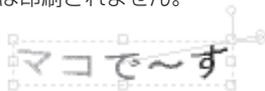
図形フィールド：図形を囲むフィールドです。

バーコードフィールド：バーコードを囲むフィールドです。

QRコードフィールド：QRコードを囲むフィールドです。

フィールドは、選択すると、下記のように薄いグレーの四角形で表現されます。この四角形は、実際には印刷されません。

文字フィールド



画像フィールド



図形フィールド



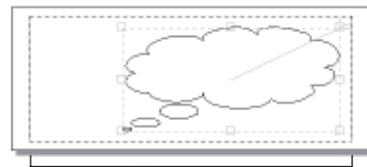
バーコードフィールド



QRコードフィールド



重要 フィールドは、レイアウトサイズ内に収まるように配置してください。収まらない部分は、印刷されません。



レイアウトサイズ(□の中)

■画像と図形の違いについて

本ソフトでは、「画像」と「図形」を次のように区分しています。

画像：ペイント系のソフトで描かれたイラストや、デジタルカメラやホームページなどから取り込んだ画像データなどのことです。

本ソフトにあらかじめ登録されている画像の他に、ご自分で用意した画像やパソコンで表示している画面も取り込むことができます。

図形：四角形や星印、矢印など、よく使う図形のことです。本ソフトにあらかじめ登録されています。

■フィールドの選択について

文字フィールド：文字の上をクリックしてください。



文字フィールドを選択できる



文字フィールドを選択できない

画像/図形/バーコード/QRコードフィールド：

フィールド内をクリックしてください。

共通の操作

5つのフィールドで共通の操作を説明します。

- フィールドを選択するときは、そのフィールドをクリックします。
画面上で重なったフィールドを選択するときは、[Tab]キーを押してフィールドを切り替えて、選択します。

フィールドの移動

フィールドをドラッグします。

フィールドの削除

フィールドを選択してから、[Delete]キーを押します。

フィールド内の文字・画像・図形・バーコード・QRコードの修正・差し替え

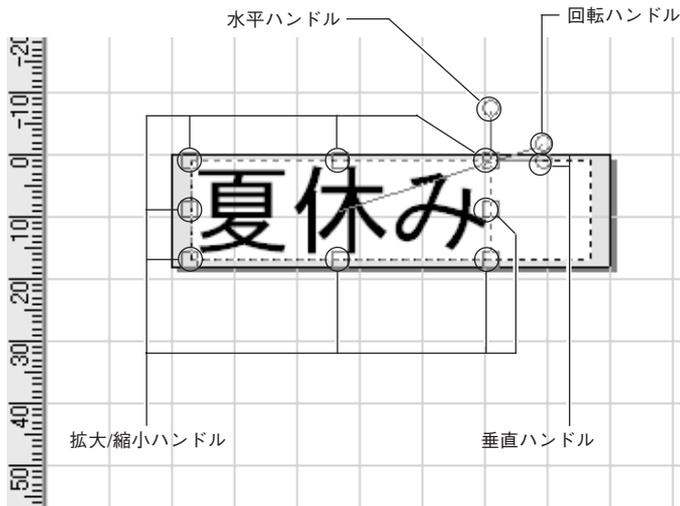
フィールドをダブルクリックすると、修正・差し替える画面が表示されます。

パネルからの挿入

パネルに表示されている文字・画像・図形をワークスペースにドラッグすると、それぞれのフィールドに囲まれて挿入されます。

フィールドの形・サイズの調整

フィールドの形・サイズを調整すると、フィールドの形に合わせて、フィールド内の文字・画像・図形の形やサイズも調整されます。



- 拡大/縮小ハンドルをドラッグすると、フィールドのサイズを調整できます。
- 回転ハンドルをドラッグすると、フィールドの角度を調整できます。
- 水平ハンドルをドラッグすると、フィールドが水平方向に斜めになります。
- 垂直ハンドルをドラッグすると、フィールドが垂直方向に斜めになります。



重要 バーコードフィールドは、垂直方向の拡大/縮小だけができます。

QRコードフィールドは、拡大/縮小できません。

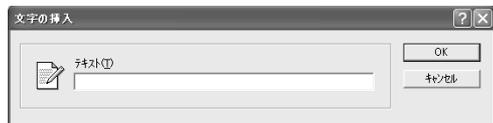
文字を挿入する

レイアウトに文字を入れる方法を説明します。

レイアウト画面が表示されていることを確認してください。

- レイアウト画面の表示については「レイアウト作成画面について」(16ページ)をご覧ください。

- 「挿入(I)」メニューから「文字(T) ...」をクリックするか、もしくは  アイコンをクリックする。

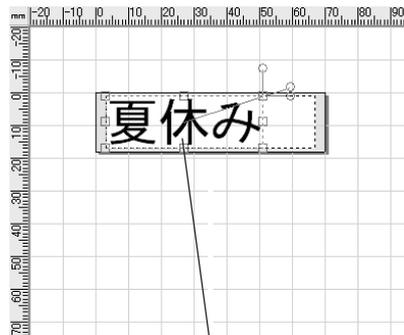


- 文字列を入力する。

- 文字列に入力可能な文字数は全角で127文字、半角で255文字です。

- [OK]をクリックする。

入力した文字は、文字フィールドに囲まれて、レイアウトに挿入されます。



文字フィールド

文字を修正・編集・削除する

文字フィールド内の文字の修正、文字フィールドの編集・サイズと角度の調整・削除について説明します。

- フィールドの詳細については「フィールドについて」(25ページ)をご覧ください。

フィールド内の文字を修正する

文字フィールド内の文字を、入力し直すことができます。

- 1 文字の上をダブルクリックするか、をクリックする。「文字の挿入」画面が表示されます。
- 2 文字を入力し直す。
- 3 [OK]をクリックする。

フィールド内の文字を編集する

挿入した文字のフォントを変えることや、文字列の形を変えることができます。編集は、フィールド内のすべての文字が対象となります。

- 1 編集する文字の上をクリックする。
 - 文字フィールドをクリックしないで編集すると、設定した内容は、これ以降に挿入するすべての文字フィールドに反映されます。

- 2 「設定(S)」メニューから「文字(T)...」をクリックするか、をクリックする。



- 3 各項目を設定する。
 - 文字を縦書きにしたい場合には、「書体名」で縦書きフォント(フォント名の先頭に@がついているフォント)を指定します。ただし、半角文字は縦書きにできません。
- 4 [OK]をクリックする。

■文字のサイズと角度を調整する

文字フィールドのサイズや角度を調整すると、フィールド内の文字のサイズや角度を調整することができます。

- 調整の操作については「共通の操作」(26ページ)をご覧ください。

文字フィールドを削除する

- 1 削除したい文字の上をクリックする。
- 2 [Delete]キーを押す。
文字フィールドが削除されます。

よく使う文字を簡単に入力する

文字を文字パネルに登録しておけば、何度も繰り返し使うことができます。

ここでは、「文字パネルへの文字の登録」「文字パネルからの文字の挿入」「文字パネルからの文字の削除」について、説明します。

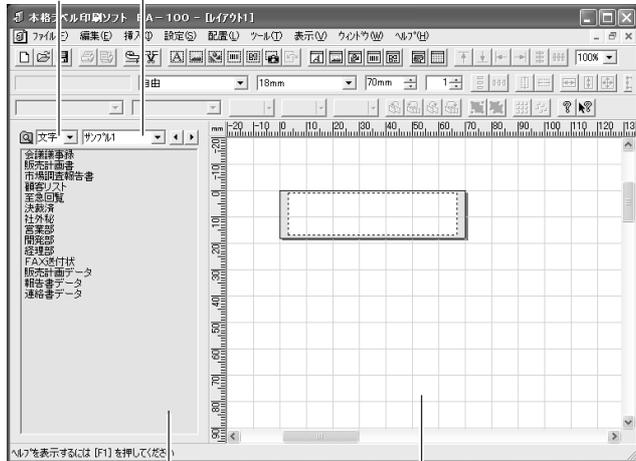
よく使う文字は、**文字パネル**に登録することができます。また、登録した文字は、**ドラッグするだけでレイアウトに挿入**できます。

文字パネルへ登録する

■ポップアップメニューから文字を登録する

1 「パネルの種類」を「文字」にする。

パネルの種類 パネル名

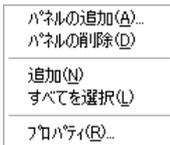


文字パネル

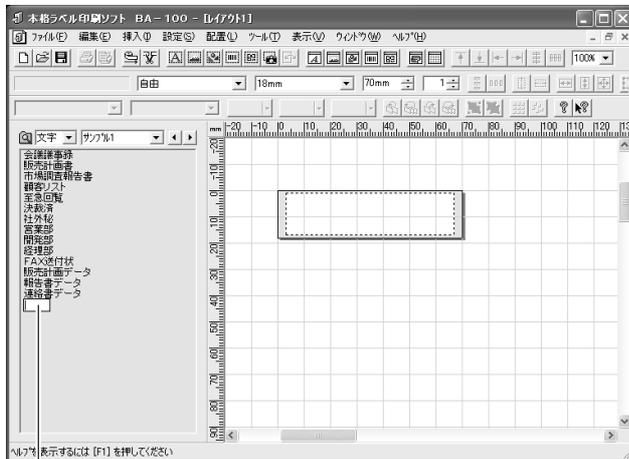
ワークスペース

2 「パネル名」を選ぶ。

3 文字パネルの上で右クリックする。 ポップアップメニューが表示されます。



4 「追加(N)」をクリックする。



文字入力ボックス

5 文字を入力する。

文字入力ボックスに、表示されます。

よく使う文字を簡単に入力する

文字

6 [Enter]キーを押す。

パネルに、入力した文字が表示されます。

■ワークスペース上から文字を登録する

パネルに登録する文字を、あらかじめワークスペース上に挿入しておいてください。

1 「パネルの種類」を「文字」にする。

文字パネルが表示されます。

2 「パネル名」を選んで、文字を登録するパネルを表示する。

表示されたパネルに、文字は登録されます。

3 登録する文字を、[Alt]キーを押した状態でワークスペース上から文字パネルまでドラッグする。

ドラッグした文字が文字パネルに表示されて、登録されたことを示します。

パネルから文字を挿入する

1 「パネルの種類」を「文字」にする。

文字パネルが表示されます。

2 「パネル名」を選ぶ。

3 挿入する文字を、ワークスペースの上にドラッグする。

文字フィールドに囲まれて、文字が挿入されます。

文字パネルから文字を削除する

1 「パネルの種類」を「文字」にする。

文字パネルが表示されます。

2 「パネル名」を選ぶ。

3 削除する文字を右クリックする。

ポップアップメニューが表示されます。

4 [削除(A)]をクリックする。

画像を挿入する

本ソフトには、イラスト(画像)があらかじめ登録されています。これらの画像や、ご自分で作成した画像などを、レイアウトに挿入することができます。また、パソコンの画面上の画像を取り込む(キャプチャー)することもできます。

画像を挿入する方法には、3つあります。

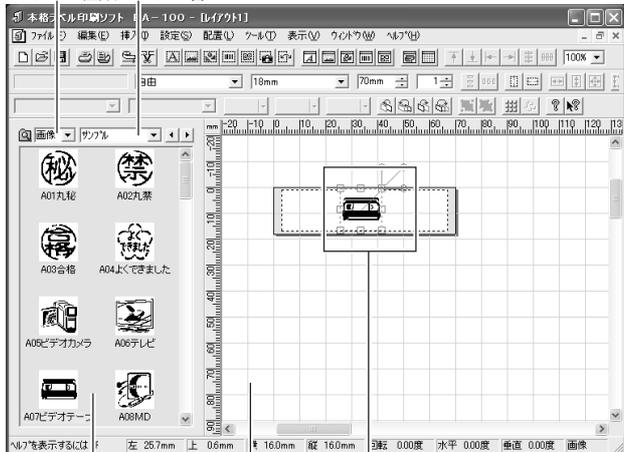
- パネルから画像を挿入する
- ファイル名を指定して画像を挿入する
- パソコンの画面を取り込む(キャプチャー)

パネルから画像を挿入する

ご自分で作成した画像をパネルに表示させることもできます(詳しくは、ヘルプをご覧ください)。

1 「パネルの種類」を「画像」にする。

パネルの種類 パネル名



画像パネル ワークスペース 画像フィールド

2 「パネル名」を変更して、挿入する画像を表示させる。

パネル名を変更すると、パネルに表示される画像が変更されます。

3 挿入する画像を、ワークスペースにドラッグする。

ドラッグした画像は、画像フィールドに囲まれて挿入されます。

ファイル名を指定して画像を挿入する

重要 挿入することができる画像は、下記のファイル形式のもので
す。



BMP、dIB、WMF、CAM、JPEG、EMF、EPS、TIFF、Flash Pix(FPX)、Photo CD(PCD)、PICT、PNG

- TIFF形式の中には、一部対応していないものがあります。
- CAM形式の「320×240ドット」サイズには対応していません。

1 「挿入(I)」メニューから「画像(G)...」をクリックするか、をクリックする。



2 挿入する画像のファイル名を設定する。

画像を挿入する

画像

3 [開く(O)]をクリックする。

指定した画像は、画像フィールドとして挿入されます。

パソコンの画面を取り込む(キャプチャー)

パソコンに表示されている画面を取り込んで、画像データとして利用することができます。

1 BA-100のタイトルバーのをクリックする。

BA-100が最小化されます。

ここをクリック



2 取り込みたい画面を表示する。

3 Windowsのタスクバーの「BA-100」をクリックする。

BA-100が元のサイズに戻ります。



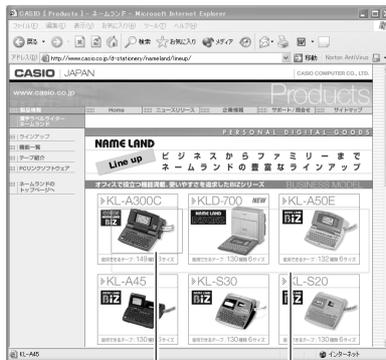
ここをクリック

4 をクリックする。

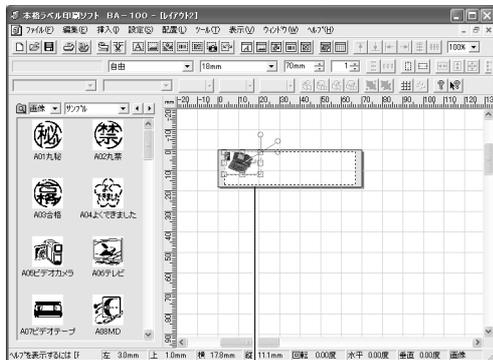
BA-100が最小化されます。

•キャプチャーを取り消すときは、[Esc]キーを押します。

5 取り込みたい範囲の左上から右下までをドラッグする。



ドラッグした範囲が ↓ レイアウトサイズに相当する範囲が、四角で囲まれます。ガイドラインとして表示されます。



ドラッグした範囲が、ラベルに取り込まれます。

- キャプチャーした範囲は、画像データとして取り込まれます。
- ガイドラインを越えた範囲までドラッグしたときは、キャプチャー後に、通常の画像と同じようにしてサイズを変更してください。(26ページ)

画像を差し替える・編集する

画像の差し替え、画像フィールドのサイズと角度の調整・削除を説明します。

- フィールドの詳細については「フィールドについて」(25ページ)をご覧ください。

フィールド内の画像を差し替える

画像フィールド内の画像を、別の画像に差し替えることができます。

- 1 画像フィールドをダブルクリックするか、をクリックする。
「画像の挿入」画面が表示されます。
- 2 挿入する画像のファイル名を設定する。
- 3 [開く(O)]をクリックする。

画像のサイズと角度を調整する

画像フィールドのサイズや角度を調整すると、フィールド内の画像のサイズや角度を調整することができます。

- 調整の操作については「共通の操作」(26ページ)をご覧ください。

画像フィールドを削除する

- 1 削除したい画像フィールドをクリックする。
- 2 [Delete]キーを押す。
画像フィールドが削除されます。

画像を加工する・作成する

画像フィールド内の画像に、線や文字などを描き入れることや、色を変えることができます。また、新しい画像を描画することもできます。

- フィールドの詳細については「フィールドについて」(25ページ)をご覧ください。

画像の加工・作成は、ペイントツールを使います。

- ペイントツールは、補助的な機能としてご利用ください。挿入する画像は、あらかじめグラフィックソフトなどで作成しておき、BA-100に挿入するようにしてください。
- BA-100では、複雑な画像は作成できません。
- 詳しくはヘルプをご覧ください。
- 複数の画像をグループ化して、ツールのペイントを起動しても、グループ化した画像を編集することはできません。
- 画像のWMF形式、EMF形式は、ツールのペイントを起動しても、編集することはできません。

ペイントツールを起動する・終了する

ペイントツールを使うと、新しい画像を作成できます。また、挿入してある画像フィールドに、文字を入れる・反転させる・色を変えるなどの操作をすることもできます。

- 1 加工する画像フィールドをクリックする。
 - 新規の画像を作成する場合は、ここでクリックしないで操作2に進みます。

2 「ツール(T)」メニューから「ペイント(P)」をクリックする。



3 画像を加工・作成する。

- 各メニューの機能については右の「ペイントツールのメニューバー」をご覧ください。
- ツールバーの機能については「ペイントツールのツールバー」(35ページ)をご覧ください。
- 描画ツールの機能については「描画ツール」(36ページ)をご覧ください。

4 加工・作成が終了したら、「ファイル(F)」メニューから「更新(S)」をクリックする。

5 「ファイル(F)」メニューから「ペイントツールの終了(X)」をクリックする。

ペイントツールが終了して、ワークスペースに加工・作成した画像が挿入されます。

ペイントツールのメニューバー

メニュー	機能
■「ファイル(F)」メニュー	
「新規作成(N)」	新しい画像を作成する。
「更新(S)」	ワークスペース上に画像を挿入または画像フィールドの内容を更新する。
「ペイントツールの終了(X)」	ペイントツールを終了する。
■「編集(E)」メニュー	
「元に戻す(U)」	直前の操作を元に戻す。
「やり直し(R)」	直前の操作をやり直す。
「切り取り(T)」	指定した範囲を切り取る。
「コピー(C)」	指定した範囲をコピーする。
「貼り付け(P)」	クリップボード上のデータを貼り付ける。
「削除(A)」	指定した範囲を削除する。
■「イメージ(I)」メニュー	
「上下反転(V)」	画像を上下反転させる。
「左右反転(H)」	画像を左右反転させる。
「シャープ(S)」	画像をシャープにする。
「ぼかし(B)」	画像をぼかす。

メニュー	機能
「エンボス(E)」	画像の輪郭を強調する。
「モザイク(M)」	画像にモザイクをかける。
「サイズ(Z)...」	画像のサイズを指定する。
■「カラー(C)」メニュー	
「明るさ/ コントラスト(B)...」	明るさとコントラストを調整する。
「ガンマ補正(G)...」	ガンマレベルの違いを補正する。
「色相/彩度/ 明度(H)...」	色相・彩度・明度のバランスを調整する。
「RGBカラー(R)...」	RGBの色要素を個別に調整する。
「セピアカラー(S)...」	色相と彩度を均一に変換する。
「グレイスケール(Y)」	グレイスケールの画像にする。
「色の反転(N)」	画像の色を反転する。
「色数(C)」	何色で画像を表現するか選ぶ。
■「表示(V)」メニュー	
「ツールバー(T)」	ツールバーを表示/非表示にする。
「ステータスバー(S)」	ステータスバーを表示/非表示にする。
「ズームイン(I)」	表示倍率を大きくする。
「ズームアウト(O)」	表示倍率を小さくする。

メニュー	機能
■「ヘルプ(H)」メニュー	
「トピックの検索(H)」	トピックの検索画面を表示する。
「バージョン情報(A)...」	ペイントツールのバージョンを表示する。

ペイントツールのツールバー

クリックすると、下記のようなことができます。

ツールアイコン	機能
	新規画像データを作成する。
	開いているデータを更新する。
	画像を上下反転させる。
	画像を左右反転させる。
	画像をシャープにする。
	画像をぼかす。
	画像の輪郭を強調する。
	画像にモザイクをかける。
	明るさとコントラストを調整する。
	ガンマレベルの違いを補正する。

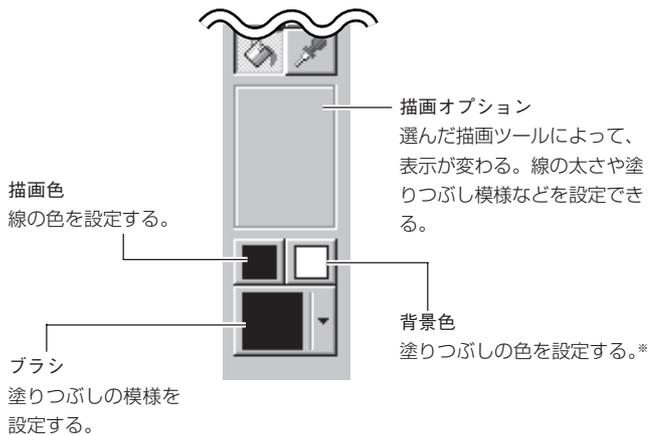
ツールアイコン	機能
	色相・彩度・明度のバランスを調整する。
	RGBの色要素を個別に調整する。
	色相と彩度を均一に変換する。
	グレイスケールの画像にする。
	画像の色を反転する。
	画像の表示倍率を変更する。
	ヘルプトピックを表示する。
	ポップヒント(「メニューコマンド」や「画面の構成要素のヒント」)を表示する。

描画ツール

クリックするとポインタの形が変わり、下記のようなことができます。

ツールアイコン	機能
	ドラッグすると、切り取り/コピー/削除/移動する範囲を指定できる。
	<ul style="list-style-type: none"> 左クリックすると拡大して表示する。 [Ctrl]キーを押しながら左クリックすると、最大になる。 右クリックすると縮小して表示する。 [Ctrl]キーを押しながら右クリックすると、最小になる。
	ドラッグしたとおりに、自由に線が描ける。
	ドラッグしたとおりに、画像が消せる。
	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグしたとおりに、直線が描ける。 [Shift]キーを押しながらドラッグすると、0度・45度・90度・135度・180度・225度・270度・315度の直線が描ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグすると、四角形が描ける。 [Shift]キーを押しながらドラッグすると、正方形になる。
	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグすると、角が丸い四角形が描ける。 [Shift]キーを押しながらドラッグすると、角の丸い正方形になる。
	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグすると、円が描ける。 [Shift]キーを押しながらドラッグすると、正円になる。
	<ul style="list-style-type: none"> クリックした位置を角とする多角形が描ける。 ダブルクリックすると描画が終了する。 始点と終点を同じにすると、あとから塗りつぶすことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> クリックすると、文字が入られる。 クリックした位置が先頭の文字の左上になる。

ツールアイコン	機能
	クリックすると、線で囲われた範囲を塗りつぶす。
	クリックした位置の色を抽出する。



※背景色は次の操作をしたときに有効になります。

- 消しゴムを使用する。
- 「描画ツール」のペン等で右クリックしながら描画する。

画像のモノクロ化を設定する

カラーの画像データを挿入すると、データはモノクロ(1色)になり、カラーはモノクロの濃淡で表現されます。

この濃淡の表現方法を設定できます。

- 1 「ファイル(F)」メニューから「接続機種の設定(R)...」をクリックする。
「ラベルプリンタのプロパティ」が表示されます。

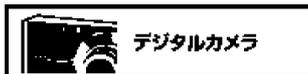
- 2 「モノクロ」タブをクリックする。



3 モノクロ化の方法を設定する。

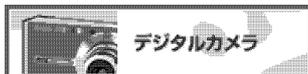
どのように印刷されるのか、白地に黒文字のテープをセットしている場合を例にして、説明します。

近似色



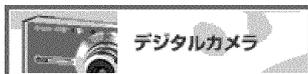
明るい色は白く、暗い色は黒くなります。線だけで描いたイラストや文字だけのデータを印刷するときに、向いています。

パターン



カラー写真をコピーしたときのように、濃い色は黒っぽく、薄い色は白っぽく印刷されます。

誤差拡散



カラー写真をコピーしたときのように、濃い色は黒っぽく、薄い色は白っぽく印刷されます。「パターン」よりも印刷に時間がかかりますが、より美しく印刷されます。

・濃淡(!)のスライダーをドラッグして、挿入した画像の濃淡を調整します。

4 [OK]をクリックする。

印刷すると、設定した方法でモノクロになります(ワークスペース上では、変化しません)。

画像をパネルへ登録する・削除する

画像を画像パネルに登録しておけば、何度でも繰り返し使うことができます。

ここでは、「画像パネルへの画像の登録」と「画像パネルからの画像の削除」について、説明します。

よく使う画像は、画像パネルに登録することができます。また、登録した画像は、あらかじめ登録してあった画像と同じように、**ドラッグするだけでレイアウトに挿入**できます。

画像をパネルへ登録する

パネルに登録する画像を、あらかじめワークスペース上に挿入しておいてください。

1 「パネルの種類」を「画像」にする。

画像パネルが表示されます。

2 「パネル名」を選んで、画像を登録するパネルを表示する。

表示されたパネルに、画像は登録されます。

3 登録する画像を、[Alt]キーを押した状態でワークスペース上から画像パネルまでドラッグする。

4 「新規ビットマップ」と表示された部分をクリックまたはダブルクリックしてカーソルを点滅状態にします。次に、登録した画像の名称を入力し、[Enter]キーを押す。

これで、画像の登録が終了しました。

画像パネルから画像を削除する

画像パネルに登録されている画像は、画像の下に表示されている名称でパソコンにファイルとして保存されています。

パネル名



これがファイル
名となります

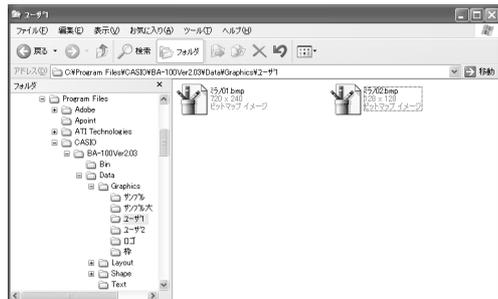
画像パネルから画像を削除するときは、パネル名のフォルダの中から画像ファイルを削除します。

1 BA-100を終了させる。

2 エクスプローラなどで、画像に登録してあるフォルダを開く。

サンプル画像は「¥Program Files¥CASIO¥BA-100Ver2.03¥DATA¥GRAPHICS¥(パネル名)」の中に登録されています。「BA-100Ver2.03」よりも上のフォルダは、BA-100Ver2.03をインストールしたフォルダによって異なります。

例 「ユーザ1」というパネルから削除するとき



3 削除するファイルを「ごみ箱」アイコンにドラッグする。

BA-100を起動すると、削除した画像は表示されなくなります。

画像パネルを追加できます

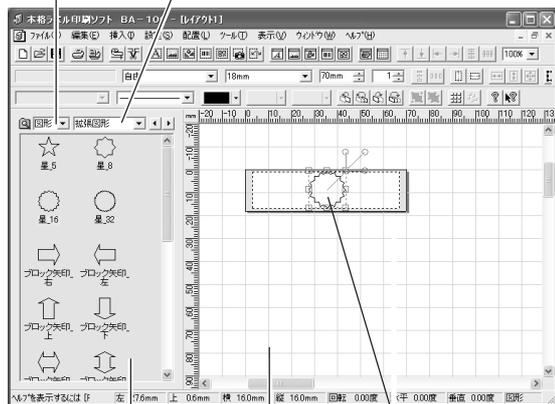
画像パネルは、ご自分で追加することもできます(ヘルプをご覧ください)。この場合、画像ファイルは、ご自分で指定したフォルダ(画像パネルのフォルダ)の中に存在しています。

図形を挿入する

BA-100には、基本的な図形があらかじめ登録されています。この図形は、簡単にレイアウトに挿入することができます。

1 「パネルの種類」を「図形」にする。

パネルの種類 パネル名



図形パネル ワークスペース 図形フィールド

2 「パネル名」を変更して、挿入する図形を表示させる。

パネル名を変更すると、パネルに表示される図形が変更されます。

3 挿入する図形を、ワークスペースにドラッグする。

ドラッグした図形は、図形フィールドに囲まれて挿入されます。

- 下記のようにして、図形を挿入することもできます。
 1. 「挿入(I)」メニューから「図形(S)...」をクリックするか、をクリックする。
 2. 「図形の種類」を選択する。
 3. 挿入する図形をクリックする。
 4. [OK]をクリックする。
- KLD-300/KLD-700を使って、ディスク面へ図形や画像の印刷をすると、印刷がかすれたり不鮮明になることがあります。

図形を差し替える・編集する

図形の差し替え・図形の線や色などの変更・画像フィールドのサイズと角度の調整・削除を説明します。

- フィールドの詳細については「フィールドについて」(25ページ)をご覧ください。

フィールド内の図形を差し替える

図形フィールド内の図形を、別の図形に差し替えることができます。

- 1 図形フィールドをダブルクリックするか、をクリックする。
「図形の挿入」画面が表示されます。

- 2 挿入する図形をクリックする。

- 3 [OK]をクリックする。

フィールド内の図形を編集する

挿入した図形の線の太さを変えることや、色を変えることができます。

- 1 編集する図形フィールドをクリックする。

- 図形フィールドをクリックしないで編集すると、設定した内容は、これ以降に挿入するすべての図形フィールドに反映されません。

- 2 「設定(S)」メニューから「図形(S)...」をクリックするか、をクリックする。



- 3 各項目を設定する。

- 4 [OK]をクリックする。

■図形のサイズと角度を調整する

図形フィールドのサイズや角度を調整すると、フィールド内の図形のサイズや角度を調整することができます。

- 調整の操作については「共通の操作」(26ページ)をご覧ください。

図形フィールドを削除する

- 1 削除したい図形フィールドをクリックする。

- 2 [Delete]キーを押す。

図形フィールドが削除されます。

バーコードを挿入する

レイアウトにバーコードを入れる方法を説明します。

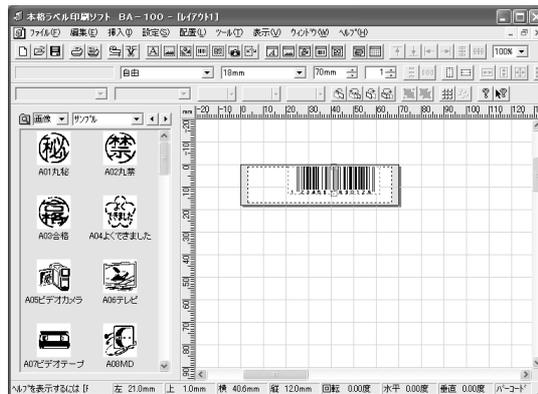
レイアウト画面が表示されていることを確認してください。
レイアウト画面の表示については「BA-100の基本的な操作」(11ページ)または「レイアウト作成画面について」(16ページ)をご覧ください。

- 1 「挿入(I)」メニューから「バーコード(B)...」をクリックするか、もしくは  アイコンをクリックする。



- 2 規格を選ぶ。
- 3 数字や文字を入力する。
 - 「入力できる文字セット」に表示される数字や文字以外は、入力できません。
 - 「桁数」に表示された値の分だけ、数字や文字を入力します。
- 4 [OK]をクリックする。

入力したバーコードは、バーコードフィールドに囲まれて、レイアウトに挿入されます。



■バーコードの印刷について

- 印刷したバーコードは、正確に読み取れるかどうか確認してからご使用ください。正確に読み取れないときは、以下の調節をしてください。
 - 印刷濃度を薄くする(60ページ)
 - サイズを大きくする(44ページ)
- バーコードの印刷に適したテープは、次のとおりです。
 - 白テープに黒文字(WE)※
 - 白テープに青文字(WEB)※
 - 黄色テープに黒文字(YW)※
 ※ ()内はテープの型番です。
- バーコードフィールドの位置は、バーコードフィールドの左端がテープの左端から21mm以上(KLD-300の場合は26mm以上)になるようにしてください。(44ページ「バーコードのサイズや規格を編集する」)

バーコードの仕様

バーコード	チェック デジット ※1	印刷される 桁数 ※3	入力する 桁数 ※4	自動的につく桁数		入力文字種 ※8
					チェック デジット※1	
JAN - 13 EAN - 13	有	13桁	12桁	—	1桁	数字0～9
JAN - 8 EAN - 8	有	8桁	7桁	—	1桁	数字0～9
UPC - A	有	12桁	11桁	—	1桁	数字0～9
UPC - E	(有)※2	6桁	6桁	—	—	数字0～9
ITF	無	4～22桁	4～22桁 偶数のみ※5	—	—	数字0～9
	有	4～22桁	3～21桁 奇数のみ※6	—	1桁	
CODE39	無	4～22桁	2～20桁	2桁※7	—	数字0～9 アルファベット A～Z
	有	4～22桁	1～19桁	2桁※7	1桁	記号 「-」 「.」 「空白」 「\$」 「/」 「+」 「%」
CODABAR	無	4～22桁	4～22桁	—	—	数字0～9 記号 「-」 「\$」 「:」 「/」 「.」 「+」
	有	4～22桁	3～21桁	—	1桁	アルファベット (先頭、末尾のみ)※9 A～D

- ※1 「チェックデジット」とは読み取り確認コードのことで、入力データより自動的に計算されます。JAN/EAN-13・JAN/EAN-8・UPC-A・ITFの“有”においては、印刷される桁数の末尾に付きます。また、CODE39の“有”・CODABARの“有”においては、印刷される桁数の末尾の1桁前に付きます。
- ※2 UPC-Eのチェックデジットの表示はされますが、バーコード下に数字として印刷されることはありません。
- ※3 バーコード下に印刷される桁数は「入力する文字数+自動的につく文字数」となります。
- ※4 この桁数に満たないときは、エラーになります。また、この桁数以上の桁数を入力することもできません。
- ※5～6 ITFは印刷される桁数が偶数でなければならないので、以下のようになります。
 ※5 ITFのチェックデジット“無”で、入力する桁数が奇数のときは、エラーになります。先頭に“0”を付けて、もう一度入力し直してください。
 ※6 ITFのチェックデジット“有”で、入力する桁数が偶数のときは、エラーになります。先頭に“0”を付けて、もう一度入力し直してください。
- ※7 CODE39では、スタートコード(先頭)“*”・ストップコード(末尾)“*”が固定されます。
- ※8 この文字種以外の文字が含まれて入力されているときは、エラーになります。
- ※9 CODABARでは、スタートコード(先頭)・ストップコード(末尾)は、“A・B・C・D”のいずれかを使用します。また、先頭もしくは末尾に“A・B・C・D”以外の文字が入力されているときは、エラーになります。

バーコードを修正・編集・削除する

バーコードフィールド内の文字や数字の修正と、バーコードフィールドの編集・サイズの調整・削除を説明します。

- フィールドの詳細については「フィールドについて」(25ページ)をご覧ください。

フィールド内の文字や数字を修正する

バーコードフィールド内の文字を、入力し直すことができます。

- 1 バーコードフィールドをダブルクリックするか、をクリックする。

「バーコードの挿入」画面が表示されます。



- 2 規格を設定し直す。
- 3 文字や数字を入力し直す。
- 4 [OK]をクリックする。

バーコードのサイズや規格を編集する

挿入したバーコードの規格を変えることや、バーコードのサイズを変えることができます。

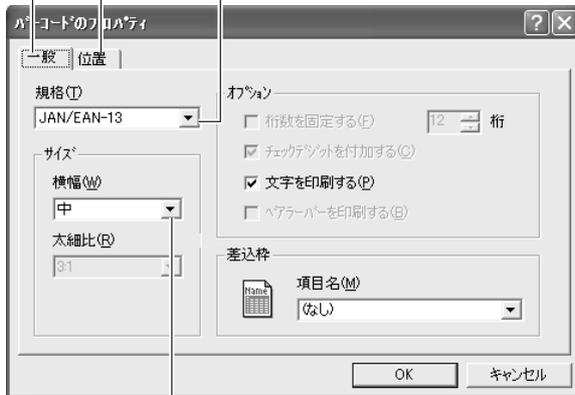
- 重要**  バーコードフィールドは、回転できません。

- 1 編集するバーコードフィールドをクリックする。

- バーコードフィールドをクリックしないで編集すると、設定した内容は、これ以降に挿入するすべての文字フィールドに反映されます。

- 2 「設定(S)」メニューから「バーコード(B)...」をクリックするか、をクリックする。

「一般」「位置」ここをクリックすると、
タブ タブ 規格を変更できます。



ここをクリックすると、バーコードの横幅を変更できます。

3 「一般」タブの各項目を設定する。

- 差込印刷をする場合には、「差込枠」の項目名ボックスで差込用データベースの項目を設定します(データベースのセルには、バーコードの規格に合った文字や数字を入力しておきます)。
- 項目の設定については「差込用データベースを作成する」(53ページ)をご覧ください。

4 「位置」タブをクリックする。



5 「位置」タブの各項目を設定する。

6 [OK]をクリックする。

バーコードフィールドを削除する

1 削除したいバーコードフィールドをクリックする。

2 [Delete]キーを押す。

バーコードフィールドが削除されます。

QRコードを挿入する

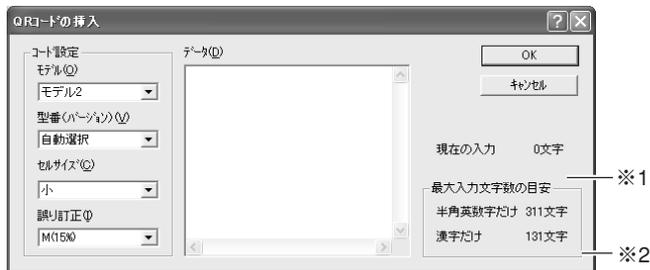
レイアウトにQRコードを入れる方法を説明します。

QRコードとは、2次元コードの一種です。携帯電話に名前、電話番号、URLなどを読み取らせるなどの使い方があります。QRコードの読み取りが可能かどうかは、お使いの携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

レイアウト画面が表示されていることを確認してください。

レイアウト画面の表示については「BA-100の基本的な操作」(11ページ)または「レイアウト作成画面について」(16ページ)をご覧ください。

1 「挿入(I)」メニューから「QRコード(Q)...」をクリックする。



2 モデルを選ぶ。

- 通常は、モデル2を選んでください。

3 型番(バージョン)を選ぶ。

- 型番(バージョン)は、自動選択および1~10より設定できます。
- 特に指定がなければ、「自動選択」を選んでください。この場合、入力文字数が多いほど大きなQRコードとなります。

4 セルサイズを選ぶ。

ご参考：セルサイズとピクセル数(プリンタ解像度200dpiの場合)

セルサイズ	セルの大きさ (mm)	1セルのピクセル数 (縦×横)
小	約0.375	3×3
中	約0.500	4×4
大	約0.625	5×5

- 従来のソフト(ver.2.02以前)で作成したQRコードを含むレイアウトを、本ソフトで呼び出した場合、QRコードのセルサイズ名称が以下のように変わります。印刷結果は変わりません。

セルサイズ 中→セルサイズ 小
セルサイズ 大→セルサイズ 中

5 誤り訂正レベルを選ぶ。

- L(7%) : 誤り訂正レベルをL(7%)に設定します。
- M(15%) : 誤り訂正レベルをM(15%)に設定します。
- Q(25%) : 誤り訂正レベルをQ(25%)に設定します。
- H(30%) : 誤り訂正レベルをH(30%)に設定します。

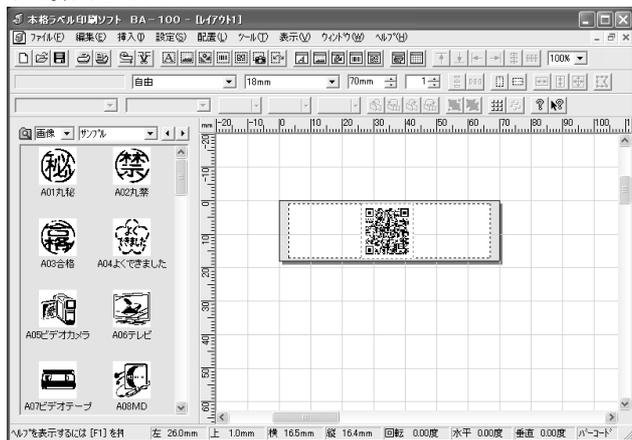
- 誤り訂正レベル上げると、QRコード読み取り時の精度が高くなりますが、QRコードにできる文字数が少なくなります。
- 携帯電話で読み取りをするときは、M(15%)以上に設定してください。

6 文字を入力する。

- ※1 現在入力されている文字数を表示します。
- ※2 入力できる最大入力文字数の目安を表示します。
- QRコードにできる文字数を超過している場合は、[OK]をクリックするとエラーが表示されます。

7 [OK]をクリックする。

入力したQRコードは、QRコードフィールドに囲まれて、レイアウトに挿入されます。



- QRコードフィールドを移動する等の操作をすると、パソコンの画面表示に時間がかかることがあります。

■QRコードの印刷について

- 印刷したQRコードは、正確に読み取れるかどうか確認してからご使用ください。正確に読み取れないときは、以下の調節をしてください。
 - 印刷濃度を薄くする(60ページ)
 - セルサイズを大きくする(46ページ)
- QRコードの印刷に適したテープは、次のとおりです。
 - 白テープに黒文字(WE)*
 - 白テープに青文字(WEB)*※()内はテープの型番です。
- QRコードフィールドの位置は、バーコードフィールドの左端がテープの左端から21mm以上(KLD-300の場合は26mm以上)になるようにしてください。(48ページ「QRコードの設定を編集する」)
- QRコードフィールドは、レイアウトサイズ(印字領域)に収まるように配置してください。
- QRコードを分割枚数2枚以上で印刷すると、正しく読み取れない場合があります。必ず1枚で印刷してください。QRコードが1枚のラベルのレイアウトサイズ内に収まらない場合は、テープ幅をより広いものに変更するか、QRコードの入力文字数を減らす、型番(バージョン)を小さくするなどして、QRコードが小さくなるようにしてください。
- QRコードを大量に連続印刷すると、正確に読み取れない場合があります。
- ディスク面へQRコードを印刷しないでください。正しく読み取れない場合があります。
- QRコードの印刷には、12mm幅以上のテープカートリッジをご使用ください。

ご注意

- QRコードを印刷し、携帯電話の電話帳にデータを登録する場合は、携帯電話会社指定の文字列(=識別子)を付け加える必要があります。詳しくはお使いの携帯電話の販売会社様にお尋ねいただくか、Webサイト等をご覧ください。

QRコードを修正・編集・削除する

QRコードフィールド内の文字の修正と、QRコードフィールドの編集・調整・削除を説明します。

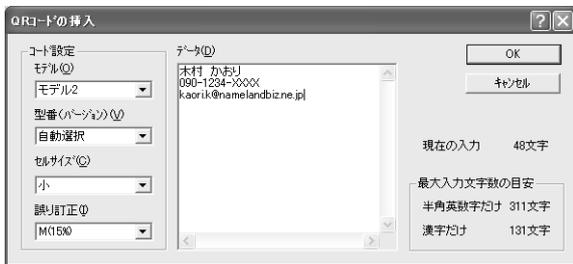
- フィールドの詳細については「フィールドについて」(25ページ)をご覧ください。

フィールド内の文字や数字を修正する

QRコードフィールド内の文字を、入力し直すことができます。

- 1 QRコードフィールドをダブルクリックするか、をクリックする。

「QRコードの挿入」画面が表示されます。



- 2 「コード設定」の項目を設定し直す。

- 3 文字や数字を入力し直す。

- 4 [OK]をクリックする。

QRコードの設定を編集する

挿入したQRコードの設定を変えることができます。

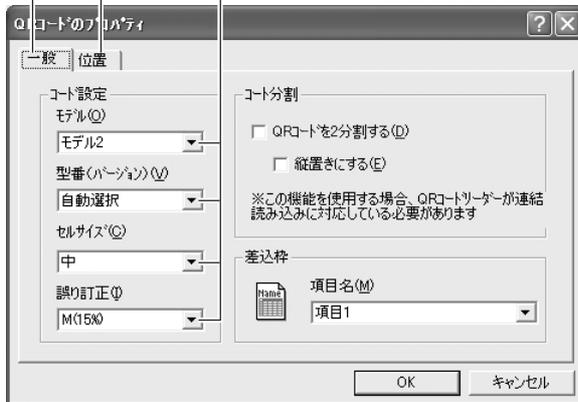
- QRコードフィールドは、回転できません。

- 1 編集するQRコードフィールドをクリックする。

- QRコードフィールドをクリックしないで編集すると、設定した内容は、これ以降に挿入するすべての文字フィールドに反映されます。

- 2 「設定(S)」メニューから「QRコード(Q)...」をクリックするか、をクリックする。

「一般」「位置」ここをクリックすると、「コード設定」をタブ タブ 変更できます。



3 「一般」タブの各項目を設定する。

- 差込印刷をする場合には、「差込枠」の項目名ボックスで差込用データベースの項目を設定します(データベースのセルには、QRコードの規格に合った文字や数字を入力しておきます)。
- 項目の設定については「差込用データベースを作成する」(53ページ)をご覧ください。

4 「位置」タブをクリックする。



5 「位置」タブの各項目を設定する。

6 [OK]をクリックする。

QRコードフィールドを削除する

1 削除したいQRコードフィールドをクリックする。

2 [Delete]キーを押す。

QRコードフィールドが削除されます。

フィールドを配置する・サイズを合わせる

複数のフィールドを整列させたりサイズを同じにするなど、フィールドを揃えることができます。また、文字フィールドと画像フィールドのサイズを同じにするなど、ちがう種類のフィールドでも、揃えることができます。

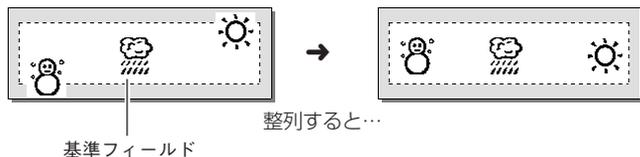
フィールドの配置・サイズ合わせとは

1つのフィールドを基準にして、複数のフィールドを上下左右に整列させることや、サイズを同じにすることができます。

例1：サイズ合わせをしたとき



例2：上に揃えて整列したとき



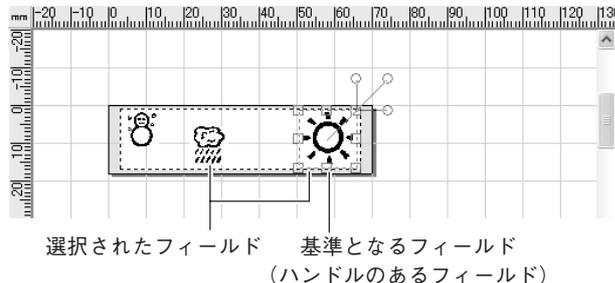
フィールドを選択する

最初に整列やサイズ合わせをするフィールドを選択します。そのあと、整列やサイズ合わせの基準となるフィールドを選択します。

- 1 揃えるフィールドをすべて囲むようにドラッグする。または、選択するフィールドを、[Shift]キーを押しながらずべてクリックする。

選択されたフィールドは、グレーの四角形で囲まれます。また、ハンドルが表示されているフィールドが、現在の基準フィールドとなっています。

重要 一部でもドラッグの外に出ているフィールドは選択されません。注意してドラッグしてください。



- 2 [Ctrl]キーを押しながら、基準とするフィールドをクリックする。

クリックしたフィールドにハンドルが表示され、基準フィールドとなります。

フィールドを配置する・サイズ合わせをする

フィールドを選択したら、フィールドの整列・サイズ合わせをします。

1 フィールドの整列・サイズ合わせをします。

「配置(L)」メニューやアイコンで、フィールドの整列・サイズ合わせをします。

- メニューバーについて(17ページ)
- ツールバー(20ページ)
- 詳しくは、ヘルプをご覧ください。

2 選択されているフィールド以外の場所をクリックする。

選択が解除されます。

差込機能について

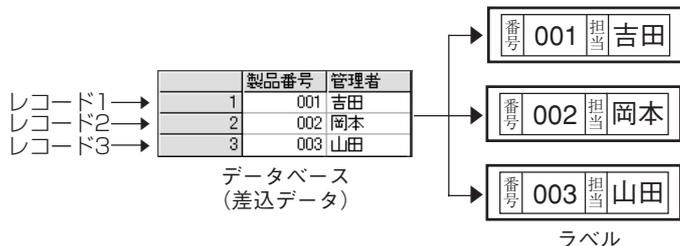
同じフォーマットを使い、その中の文字、バーコードまたはQRコードだけを入れ替えながら複数枚のラベルを連続して作ることができる機能です。

資産管理ラベルを作るときなどに便利です。

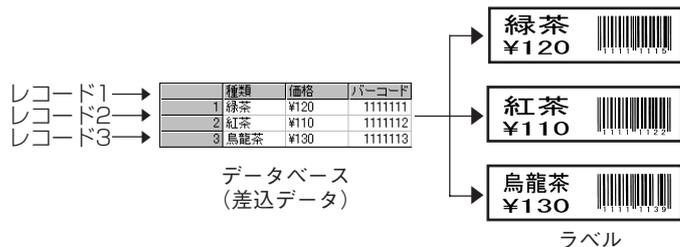
差込機能とは

データベースに登録したデータを利用して、同じフォーマットで文字、バーコードまたはQRコードが違うラベルを複数枚作成する機能です。

例1



例2



操作の流れ

ここでは操作の流れを説明します。実際の操作方法については次のページから説明しています。

- ① 差込データベースツールを使って、差込データを作成する。
↓
- ② 印刷するラベルのフォーマットを作成する。
↓
- ③ 差込データを挿入する文字フィールド／バーコードフィールド／QRコードフィールドを作成する。
↓
- ④ 作成したフィールドに、挿入する差込データを設定する。
↓
- ⑤ 印刷する。

差込用データベースを作成する

差込機能を使うには、まず差込データベースツールを使ってデータベースを作成します。

差込データベースを作るには、「新規に差込データを作成する方法(差込データベースの新規作成)」と「他のソフトで作成したデータを利用して作成する方法(差込データベースの流用作成)」の2つがあります。

差込データベースツールを起動する・終了する

1 「ツール(T)」メニューから「差込データベース(D)」をクリックする。



2 データを作成する。

- ・新規作成については「差込データベースを新規作成する」(54ページ)をご覧ください。
- ・流用作成については「差込データベースを流用作成する」(55ページ)をご覧ください。

3 データの作成が終了したら、「ファイル(F)」メニューから「更新(S)」をクリックする。

4 「ファイル(F)」メニューから「差込データベースツールの終了(X)」をクリックする。

差込データベースツールが終了します。

差込データベースツールのメニューバー

メニュー	機能
■「ファイル(F)」メニュー	
「新規作成(N)」	新しい差込用データを作成する。
「更新(S)」	差込用データを更新する。
「インポート(I)...」	他のソフトで作成したデータを取り込む。
「エクスポート(E)...」	他のソフトで利用できる形式でデータを出力する。 (.csv, .asc, .dat, .txt)
「差込データベースツールの終了(X)」	差込データベースツールを終了する。
■「編集(E)」メニュー	
「元に戻す(U)」	直前の操作を元に戻す。
「やり直し(R)」	直前の操作をやり直す。

メニュー	機能
「切り取り(T)」	指定した範囲を切り取る。
「コピー(C)」	指定した範囲をコピーする。
「貼り付け(P)」	クリップボード上のデータを貼り付ける。
「削除(A)」	指定した範囲を削除する。
「行の削除(W)」	選択した行を削除する。
「列の削除(M)」	選択した列を削除する。
■「挿入(I)」メニュー	
「行(R)」	空白行を挿入する。
「列(C)」	空白列を挿入する。
■「データ(D)」メニュー	
「並べ替え(S)...」	データを降順/昇順に並べ替える。
■「表示(V)」メニュー	
「ツールバー(T)」	ツールバーを表示/非表示にする。
「ステータスバー(S)」	ステータスバーを表示/非表示にする。
■「ヘルプ(H)」メニュー	
「トピックの検索(H)」	トピックの検索画面を表示する。
「バージョン情報(A)...」	データベースツールのバージョンを表示する。

差込データベースツールのツールバー

クリックすると、下記のようなことができます。

ツールアイコン	機能
	新規データベースを作成する。
	差込用データを更新する。
	他のソフトで作成したデータを取り込む。
	他のソフトで利用できるようにデータを保存する。
	空白行を挿入する。
	空白列を挿入する。
	データを昇順に並べ替える。
	データを降順に並べ替える。
	ヘルプトピックを表示する。
	ポップヒント(「メニューコマンド」や「画面の構成要素のヒント」)を表示する。

差込データベースを新規作成する

差込データベースツールで作成します。

- 「ファイル(F)」メニューから「新規作成(N)」をクリックするか、をクリックする。

・起動時に新規の画面が表示されているときは、ここは操作しないで、操作2に進んでください。

2 「挿入(I)」メニューから「行(R)」をクリックするか、をクリックして、必要な分だけレコード入力行を増やす。

3 「挿入(I)」メニューから「列(C)」をクリックするか、をクリックして、必要な分だけ項目欄を増やす。

4 項目名欄(「項目1」や「項目2」など)をクリックしてから、「項目名入力ボックス」に項目名を入力する。



5 セルをクリックしてから、「データ入力ボックス」にデータを入力する。

重要  セルに直接入力することはできません。必ず、セルを選択した後に「データ入力ボックス」に入力してください。

6 操作4~5を繰り返して、必要な項目名とデータを入力する。

7 作成が終了したら、「ファイル(F)」メニューから「更新(S)」をクリックする。

8 「ファイル(F)」メニューから「差込データベースの終了(X)」をクリックする。

差込データベースツールが終了して、差込データベースツールを起動する前の画面に戻ります。

差込データベースを流用作成する

他のソフトで作成したデータベースを流用して、差込データベースを作成することができます。

重要  流用できるデータは、下記のファイル形式のものです。

.txt .dat .csv .asc .xls

ただし、ファイル形式が「.xls」のデータは、Microsoft® Excel 95/97/2000/2002/2003で作成したものをご利用ください。

• Excelファイルを流用するには、Microsoft® Excel 95/97/2000/2002/2003がインストールされている必要があります。

ここでは、ファイル形式が「.xls」のデータを流用する方法を説明します。

1 「ファイル(F)」メニューから「インポート(I)...」をクリックするか、をクリックする。

「データファイルを開く」画面が表示されます。

2 流用するファイル名を設定する。

3 「開く(O)」をクリックする。

「.txt」「.dat」「.csv」「.asc」のデータの場合は、「テキストデータの形式」画面が表示されます。「.xls」のデータの場合は「シートの選択」画面が表示されます(表示されないときは、操作6に進んでください)。

• Excelファイルをインポートするときの注意
読み込みが可能なExcelの最大サイズは1,024行×128列です。

4 「テキストデータの形式」または「シートの選択」を設定する。

5 [OK]をクリックする。

6 差込データとして利用する範囲をドラッグして反転させる。
ドラッグした範囲が「セル範囲」に表示されます。



7 各項目を設定する。

8 [OK]をクリックする。

差込データベースが完成します。

9 作成が終了したら、「ファイル(F)」メニューから「更新(S)」をクリックする。

10 「ファイル(F)」メニューから「差込データベースツールの終了(X)」をクリックする。

差込データベースツールが終了して、差込データベースを起動する画面に戻ります。

フィールドを差込設定する

差込データベースに入力した文字や数字は、文字フィールド／バーコードフィールド／QRコードフィールドの中に差し込まれます。

最初に、差し込み用の文字フィールド、バーコードフィールドまたはQRコードフィールドを作成します。そのあと、そのフィールドにデータベースのどの欄(項目名)のデータを差し込むかを指定します。

•ここでは、例として文字フィールドを設定します(バーコードフィールド／QRコードフィールドのときも同様に設定します)。

1 差し込み用の文字フィールドを作成する。

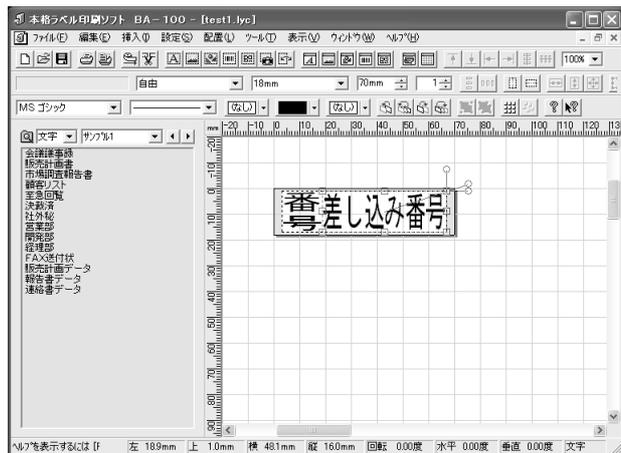
文字フィールドを作成するときは、差し込み用であることが、はっきりとわかる文字列を入力して作成してください。

•ここで入力した文字列、バーコードまたはQRコードは、差込印刷をしても印刷されません。

2 文字フィールドを配置して、フォーマットを決める。

3 データを差し込む文字フィールドをクリックする。

クリックしたフィールドが選択されている状態になります。



4 「設定(S)」メニューから「文字(T)...」をクリックするか、をクリックする。

文字のプロパティ画面が表示されます。

5 「差込枠」の項目名ボックスをクリックする。

データベースの項目名が表示されます。

6 差し込む項目名をクリックする。



画面上では変化はありませんが、このあと差込印刷をすると、選択した項目名(列)に入力してあるデータが差し込まれるようになります。

7 [OK]をクリックする。

差込内容を確認する

- 差し込みした内容をレイアウトに実際に差し込んだ状態にして、画面で確認することができます。
- あらかじめ、差込設定をしておいてください。
- 差込設定については、「フィールドを差込設定する」(56ページ)をご覧ください。

1 「ファイル(F)」メニューから「差込プレビュー(G)...」をクリックする。

2 何番目のレコードを表示するのか、レコード番号ボックスに入力する。

指定したレコードの内容が、差し込み用の文字フィールドに表示されます。

レコード番号の変更に合わせて、表示は変わります。



差込用の文字フィールド

3 [キャンセル]をクリックする。

差込プレビューを実行する前の状態に戻ります。

- **[OK]をクリックすると**、指定したレコードの内容がレイアウトに差し込まれて表示されます。このとき、**差込プレビューを実行する前の状態に戻すことはできません**。
- 特定のレコードが差し込まれている状態で印刷すると、そのレコードだけを印刷することができます。(「印刷する」60ページ)

印刷するときの注意事項

印刷するときは、ここに記載されていることに注意してください。

あらかじめ、次のことを確認してください。

- パソコンとお使いのプリンターが接続されているか。またはUSBリンクボタンが押されているか。
- 印字する前に文字や図形が印刷範囲からはみ出していないか。
- 設定したテープ/ディスクとプリンターにセットされているテープ/インクリボンカセットが一致しているか。
- どのように印刷されるのか詳しく確認したいときは、400%表示にすると便利です(ズーム機能をお使いください)。
- お使いのテープ/インクリボンカセットによっては、接続しているプリンターでの濃度設定が必要な場合があります。詳しくは、テープカートリッジの注意書きを参照してください。ディスクに印刷する場合、メディアごとに最適な印刷濃度があります。詳しくは、プリンターに付属の推奨メディア一覧をご覧ください。また最新の情報は、ホームページからもご覧いただけます。
(<http://casio.jp/support/EZ-USB/media/>)
- ディスク面へ図形や画像を印刷すると、かすれたり不鮮明になることがあります。
- KL-A50Eをお使いの場合、印刷が濃すぎるときはKL-A50Eで濃度が薄くなるように設定します。詳しくは、KL-A50Eの取扱説明書をご覧ください。
- 機種によっては、3.5ミリ幅テープと9ミリ幅テープを区別できないものがあります。
プリンターに装着されたテープ幅を選択してください。

重要  • KL-E11、KL-E20で印刷できるテープの最大の幅(長さ)は、300mmです。

■「KL-E11」で印刷するときの注意

- ご使用になるテープ幅以上の印刷幅で、長い印刷や、連続して印刷すると、鮮明な印刷ができなかったり、テープがつまるなど、**故障の原因となることがあります。**
ご使用になるテープ幅よりも小さい印字幅で印刷することをおすすめします。

印刷する

作成したレイアウトを、プリンターで印刷、差込印刷をしましょう。
また、テープ送りとテープカットも、パソコンからできます。

テープに印刷する

- 1 「ファイル(F)」メニューから「ラベルプリンターで印刷(P)...」をクリックするか、をクリックする。



- 2 「プロパティ(P)...」をクリックする。



- 3 各項目を設定する。

- 機種名は、プリンターの種別を表示します。同一のプリンターでも、ネットワーク経由で接続されている場合は、印刷先にプリンター名(パス名を含む)が表示されます。
- プリンター名に「未インストール」と表示されている場合は、プリンタードライバー(プリンター用デバイスドライバー)の追加インストールをする必要があります(KL-V400、KL-M20、KLD-300およびKLD-700をお使いの場合は、プリンター同梱の「はじめにお読みください」、その他のプリンターをお使いの場合は、ダウンロードサイトの「プリンタドライバ取扱説明書」をご覧ください)。
- 実際に印刷した結果、文字や図形がかすけていたり濃すぎるときは印刷濃度を変更してください。
- KL-A50Eをお使いのときは、印刷濃度はKL-A50E側で設定してください。

- 4 [OK]をクリックする。

- 5 部数やオプションなどを設定する。

- 「オートカットの方法(T)」で、テープのカット方法を選択することができます。「半分カット・フルカット」「フルカットのみ」「カットしない」から選択します。
- 「半分カット・フルカット」を選択すると、複数枚の印刷をしても、途中でフルカットしないで半分カットします。余白部分が省略されるので、テープを節約することができます。
- ファンシーテープの場合、「フルカットのみ」「カットしない」の中から選択します。
- プリンターの機種を変更した場合、「カット方法」の設定が変わる場合があります。
- 裏書印刷をする場合は、裏書印刷する(M)をチェックします。

KL-M20/EL-700/KL-S30のとき

余白	オートカットの方法	テープカットされるテープ長 ^{※1}
小	ハーフカット・フルカット	29~300mm
	フルカットのみ	23~300mm
	カットしない	—
中	ハーフカット・フルカット	36~300mm
	フルカットのみ	30~300mm
	カットしない	—
大	ハーフカット・フルカット	45~300mm
	フルカットのみ	45~300mm
	カットしない	—

KL-V400/KLD-300のとき

余白	オートカットの方法	テープカットされるテープ長 ^{※1}
小	ハーフカット・フルカット	31~300mm
	フルカットのみ	25~300mm
	カットしない	—
中	ハーフカット・フルカット	38~300mm
	フルカットのみ	32~300mm
	カットしない	—
大	ハーフカット・フルカット	48~300mm
	フルカットのみ	48~300mm
	カットしない	—

EL-5000W(ネームランドテープ)/KL-A50Eのとき

余白	オートカットの方法	テープカットされるテープ長 ^{※1}
小	ハーフカット・フルカット	28~300mm
	フルカットのみ	22~300mm
	カットしない	—
中	ハーフカット・フルカット	35~300mm
	フルカットのみ	29~300mm
	カットしない	—
大	ハーフカット・フルカット	44~300mm
	フルカットのみ	44~300mm
	カットしない	—

※1 テープカットできない長さで「ハーフカット・フルカット」または「フルカットのみ」を印刷すると、テープ長さは指定したテープ長さよりも長くなります。

6 プリンターとパソコンを接続する。

- USBリンクボタンがあるプリンターは、USBリンクボタンを押します。
プリンターの画面に「通信準備完了」と表示されていることを確認してください。

7 [OK]をクリックする。

印刷が始まります。

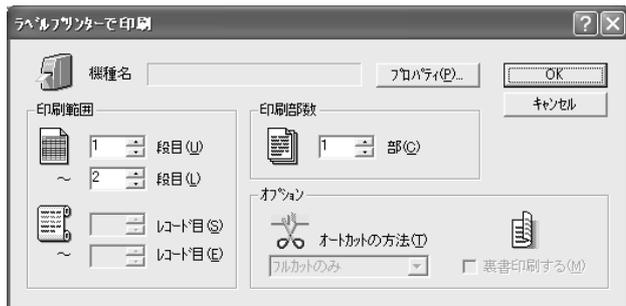
- 印刷を中止するときは、プリンターの機種名が表示されたプリンターモニター画面の「印刷中止(S)」ボタンをクリックします。
- 拡大印刷したときは、テープを組み合わせて貼ってください。
(「テープカートリッジの幅以上のラベルを作成するときは」66ページ参照)

ディスクに印刷する

注意

- プリンターがディスク印刷できる機種(KLD-300/KLD-700D)に設定されている場合に印刷できます。
- ディスクへの印刷は、ディスクにデータを記録する前にされることをおすすめします。すでにデータが記録されているディスクに印刷した場合、データ破損の補償はいたしません。
- 印刷前にお使いのプリンターに同梱の「推奨メディア一覧」をお読みいただき、印刷可能なディスクの種類や印刷時の注意事項についてご確認ください。また、最新の情報は、ホームページからもご覧いただけます。
(<http://casio.jp/support/EZ-USB/media/>)
- 本体が破損する原因となるため、シングルCD-Rや名刺サイズのCD-Rには印刷できません。
- 印刷できるのは、直径12cmのディスクだけです。
- ディスク面へバーコードやQRコードを印刷しないでください。正しく読み取れない場合があります。
- ディスク面へ図形や画像を印刷すると、かすれたり不鮮明になることがあります。

- 1 「ファイル(F)」メニューから「ラベルプリンターで印刷(P)...」をクリックするか、をクリックする。



- 2 [プロパティ(P)...]をクリックする。



- 3 各項目を設定する。

- 機種名は、プリンターの種別を表示します。同一のプリンターでも、ネットワーク経由で接続されている場合は、印刷先にプリンター名(パス名を含む)が表示されます。
- プリンター名に「未インストール」と表示されている場合は、プリンタードライバ(プリンター用デバイスドライバ)の追加インストールをする必要があります(プリンター同梱の「はじめにお読みください」を参照してください)。

- 4 [OK]をクリックする。

- これ以降の説明はKLD-300を例にします。

5 プリンターにKLD-300付属のインクリボンカセット専用アダプターとインクリボンカセットがセットされていることを確認する。

6 プリンターとパソコンを接続する。

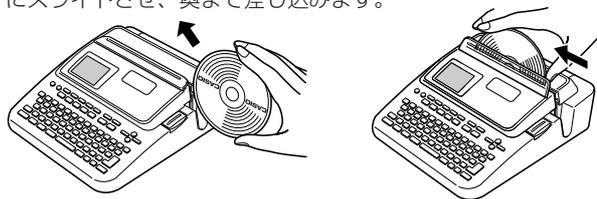
7 プリンターのUSBリンクボタンを押します。

- ・プリンターの画面に「通信準備完了」と表示されていることを確認してください。

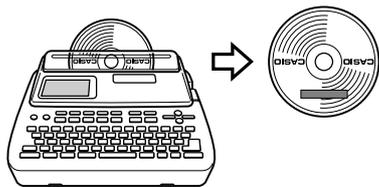
8 [OK]をクリックする。

9 プリンターにディスクをセットする。

プリンター正面右横から印字面を手前にして、ディスクを右から左にスライドさせ、奥まで差し込みます。



位置合わせ用定規に合わせて、ディスクの印刷面を合わせます。



10 [印刷開始(P)]をクリックする。

印刷が始まります。

- ・印刷を中止するときは、プリンターの機種名が表示されたプリンターモニター画面の「印刷中止(S)」ボタンをクリックします。

重要 ディスクの上下に印刷する場合は、印刷後にいったんディスクを取り外し180度回転させてから、操作8の手順で再びディスクをセットし、[印刷開始(P)]をクリックします。

- ・印刷中は、絶対に、AC アダプターやUSB ケーブルを取り外さないでください。
- ・印刷中に、ディスクの出口付近をふさがないようにしてください。また、印刷中はディスクに触れないでください。

テープに差込印刷する

差込機能については、「差込機能について」(52ページ)をご覧ください。

1 「ファイル(F)」メニューから「ラベルプリンターで差込印刷(M) ...」をクリックする。



2 各項目を設定する。

3 [プロパティ(P)...]をクリックする。



4 各項目を設定する。

5 [OK]をクリックする。

6 部数やオプションなどを設定する。

7 プリンターとパソコンを接続する。

- USBリンクボタンがあるプリンターは、USBリンクボタンを押します。
プリンターの画面に「通信準備完了」と表示されていることを確認してください。

8 [OK]をクリックする。

印刷が始まります。

- 印刷を中止するときは、プリンターの機種名が表示されたプリンターモニター画面の「印刷中止(S)」ボタンをクリックします。
- 登録してあるレコードの中の1つだけを印刷したいときは、次のようにします。
 - ① 差込プレビューを使って印刷するレコードをレイアウト画面に表示し、文字フィールドに実際に文字を差し込む。
 - ② 通常の印刷をする。(「印刷する」60ページ参照)
また、62ページの操作1の表示画面で、印刷するレコードを「印刷開始レコード」と「印刷終了レコード」の両方に設定しても、1つだけのレコードが印刷されます。

テープ送りをする・テープをカットする

パソコンからできます。

1 ツールアイコンをクリックする。



をクリックすると、テープ送りができます。



をクリックすると、テープをカットできます。

内蔵画像ライブラリー一覧

BA-100には、サンプル・サンプル大のほか、以下のジャンルごとに画像データがお使いになれます(全部で1099種)。

- | | | | |
|---------|-----------|---------|----------|
| 01 オフィス | 02 スケジュール | 03 天気 | 04 注意 |
| 05 案内 | 06 店 | 07 食べ物 | 08 暮らし |
| 09 乗り物 | 10 季節 | 11 ビデオ | 12 オーディオ |
| 13 おもしろ | 14 趣味 | 15 スポーツ | 16 人物 |
| 17 生き物 | 18 干支 | 19 星座 | スタンプ |
| ロゴ | 枠 | | |

上記ジャンルの画像を呼び出すには、BA-100のビューアパネルの種類を「画像」にして、パネル名リストを表示させて各ジャンルを選択します。



• 詳しくは、「画像を挿入する」(31ページ)をご覧ください。

数字フォント一覧

BA-100には、10種類のTrue Typeフォント(数字と一部の記号のみ)が付属しています*。必要な場合は、BA-100をインストールするときこれらフォントもインストールしてください。

Kanaface Cotton	01234567890.,-¥
Kanaface Fantasy	01234567890.,-¥
Kanaface Floral	01234567890.,-¥
Kanaface Garden	01234567890.,-¥
Kanaface Grandprix	01234567890.,-¥
Kanaface Melody	01234567890.,-¥
Kanaface October	01234567890.,-¥
Kanaface Shade	01234567890.,-¥
Kanaface Square	01234567890.,-¥
Kanaface White bear	01234567890.,-¥

*これらの数字フォントは、株式会社シーアンドジイが著作権を保有する「カナフェイス」の中の文字を使用しています。

ラベル作成のヒント

縦書きラベルを作成するときは

縦書きラベルの作成には、縦書きフォントを使用します。

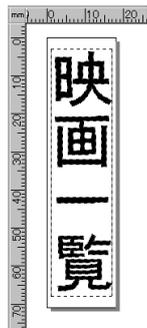
1. 横置きで使用する場合

「ラベルのプロパティ」画面(14ページ)の「ラベルの方向」を「横」に設定します。次に、「文字のプロパティ」画面(28ページ)で縦書きフォント(フォント名の先頭に@が付いているフォント)を指定して文字を入力します。ただし、半角文字は縦書きにできません。



2. 縦置きで作成する場合

「ラベルのプロパティ」画面(14ページ)の「ラベルの方向」を「縦」に設定します。次に、横置きの場合と同様に縦置きフォントで文字フィールドを作成します。そのあと、文字フィールドを回転して(「回転ハンドル」26ページ参照)、下記の画面のようにします。



テープカートリッジの幅以上のラベルを作成するときは

ラベルを貼り合わせれば、セットしてあるテープカートリッジの幅よりも大きいラベルを作ることができます。

例 12mmテープカートリッジを使って、下のようなラベルを作成する



1. 「ラベルのプロパティ」画面で、ラベル幅を「12mm」に、分割枚数を「3枚」に設定します。(「新しいレイアウトを作成する」14ページ参照)

重要 ・分割枚数が指定できるテープの幅は機種によって異なります。
・印刷範囲(幅)が600mmを超えないように、分割枚数を設定してください。

2. テープの内容を作成します。



3. 印刷します。

ラベルが3枚印刷されます。組み合わせて貼ると、例のようなラベルができあがります。

BA-100の付録

ソフト操作時のトラブルについて

症状	考えられる原因	ご確認ください
●文字のドットが一部欠けて印刷される	文字フィールドのサイズが小さい	文字フィールドのサイズを少し大きくしてください。サイズを変更しても欠けてしまうときは、「設定(S)」メニューの「文字(T)…」をクリックして「配置」の「文字揃え(A)」を「自動(文字幅)」に設定し、印刷してください。また、端の部分に空白を入れると端が欠けずに印刷できることがあります。
	文字のサイズが印刷フィールドに対して大きい	文字のサイズを小さくしてみてください。また、端の部分に空白を入れると端が欠けずに印刷できることがあります。

印刷時のトラブルについて

印刷してもテープが出てこない

- **テープ収納部のカバーがしっかりと閉まっていない**
カバーをしっかりと閉めてください。
→本体の取扱説明書を参照
- **テープが終了している**
新しいテープカートリッジに交換してください。
→お使いのプリンターの取扱説明書を参照
- **テープがつまっている**
ACアダプターを外してからテープカートリッジを取り出して、つまったテープを指で引き出します。引き出したテープはハサミなどでカットしてください。そのあと、テープカートリッジを正しくセットし直します。つづいてACアダプターを接続します。
 印刷中に、次のようなことはしないでください。
 - ・テープ出口をふさぐ
 - ・出てくるテープに触る
 - ・テープ収納部のカバーを開ける
 - ・ACアダプターを外す
 - ・USBケーブルを外す→お使いのプリンターの取扱説明書を参照
- **クラフトシールがセットされていない**
クラフトシールをセットしてください。
- ・クラフトシール用カートリッジは一部の機種種の付属品です。

印刷したときにテープは出てくるが、何も印刷されない

- **「空白」だけが入力されている**
印刷したい文章を入力してください。

印刷が不鮮明

- **印刷濃度の設定が適切でない**
設定を変更してください。
- **テープカートリッジが正しくセットされていない**
正しくセットし直してください。
→お使いのプリンターの取扱説明書を参照
- **プリンターヘッドやゴムローラーが汚れている**
プリンターヘッドやゴムローラーをクリーニングしてください。
→お使いのプリンターの取扱説明書を参照

インクリボンがテープといっしょにテープ出口から出てきた

- **インクリボンがたるんでいるままで、テープカートリッジをセットした**
テープカートリッジを取り出します。インクリボンが切れていないことを確認し、正しくセットし直してください。
→お使いのプリンターの取扱説明書を参照



- **テープカートリッジをセットするときは、必ずインクリボンのたるみを取ってください。**
- **インクリボンが切れているときは、新しいテープカートリッジ(別売)に交換してください。**

テープが切れない

- **テープがつまっている**
テープカートリッジを取り出し、つまっているラベルを取り除いてください。
→お使いのプリンターの取扱説明書を参照
- **テープカッターが磨耗している**
お使いのプリンターの取扱説明書に記載されているカシオテクノ・サービスステーションに連絡して交換してください。
- **印刷するときに、「カットしない」を選んでいる**
「カットしない」以外を選んでください。
- **ラベルの長さが短い**(「余白小」で約27mm以下/「余白中」で約34mm以下、「余白大」で約44mm以下)
印刷終了後、ハサミなどでカットしてください。

ハーフカットができない

● ハーフカッターが磨耗している

お使いのプリンターの取扱説明書に記載のカシオテクノ・サービスステーションに連絡して交換してください。

● 「オートカットの方法(T)」を、「カットしない」に設定している

「オートカットの方法(T)」を「ハーフカット・オートカット」に設定してください。



- テープカートリッジをセットするときは、必ずインクリボンのたるみを取ってください。
- 反射テープやマグネットテープなどの特殊なテープはハーフカットできません。

テープが貼れない

● 裏紙をはがしていない

裏紙をはがしてから貼ってください。

→お使いのプリンターの取扱説明書を参照

● 貼る場所やものが適していない

適している場所やものに貼ってください。

→お使いのプリンターの取扱説明書を参照

印刷が途中で止まる

● プリンターヘッドが加熱している

印刷時にはプリンターヘッドが熱くなります。たくさんのテープを続けて印刷したときや、黒い部分が多いテープを印刷したときなど、プリンターヘッドが熱くなりすぎないように印刷を中断することがあります。しばらくすると自動的に印刷が再開されます。そのままお待ちください。

● プリンター本体にセットしてある電池が消費している

印刷時には、通常よりも多くの電力を必要とします。このため、プリンターの電源が入っていても、印刷すると停止することがあります。

新しい電池に交換するか、ACアダプターを接続してご使用ください。

エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	対処方法
エラーが発生しました	印刷する際に問題が発生しました。
通信エラーが発生しました	プリンターとパソコンが接続されていることを確認してください。または、プリンターの電源が入っていることを確認して、もう一度印刷してください。
エラーが発生しました	<p>プリンターの状態が異常です。いったん電源を入れ直してください。その後、印刷をやり直してください。</p> <p>プリンターの電源電圧が異常です。電池が消耗しているかもしれません。プリンターの電池を交換するか、電源アダプターを接続して印刷をしてください。</p> <p>USBドライバーが正常にインストールされているかどうかを確認してください。</p>
印刷中止が指定されました	印刷がキャンセルされました。
確認してください	<p>プリンターにディスクがセットされていません。ディスクをセットしてください。</p> <p>プリンターにインクリボンカセットが装着されていません。インクリボンカセットをプリンターに装着してください。</p> <p>インクリボンカセットの残量がありません。新しいインクリボンカセットに交換してください。</p> <p>プリンターのヘッド温度が高すぎます。しばらくしてから印刷を再開してください。</p> <p>プリンターと通信ができません。プリンターが接続されている場合は、USBリンクボタンでリンクしてください。</p> <p>プリンターに装着されているテープの幅・種類が合っているか確認してください。</p>

エラーメッセージ	対処方法
確認してください	<p>プリンター内にテープが詰まっていないか、テープ幅・種類が合っているか、テープが終了していないか確認してください。</p> <p>プリンターにセットされたディスクの位置が正しくありません。プリンターの取扱説明書を参照して、正しくセットしてください。</p> <p>指定のプリンターが接続されていません。プリンターを確認して、もう一度印刷してください。</p> <p>● ドライバーのポート指定が MULTI-USB PORTの場合： その機種がどのポートにも接続されていません。プリンターをUSBポートに接続してください。</p> <p>● ドライバーのポート指定が MULTI-USB#1_2などの指定の場合： その機種が指定のポートに接続されていません。他のポートに接続されていても指定のポートに接続されていなければ、このエラーが出ます。指定のポートにプリンターを接続してください。ポート指定の確認はWindows 2000/XP の場合はプリンタープロパティのポートタブで、Windows 98/Meの場合はプリンタープロパティの詳細タブの印刷先のポートで確認できます。</p> <p>接続されているプリンターが指定のものとは違います。プリンターを確認して、もう一度印刷してください。</p> <p>● ドライバーのポート指定が MULTI-USB PORTの場合： このエラーは出ません。</p> <p>● ドライバーのポート指定が MULTI-USB#1_2などの指定の場合： 指定のポートに接続されている機種が違います。指定の機種プリンターを接続し直してください。</p>

エラーメッセージ	対処方法
プリンターの電源が消耗しています。印刷を続行しますか？	印刷継続ボタンを押して印刷することもできますが、電池が消耗した状態で印刷を続けるとプリンターの電源がOFFします。プリンターの電池を交換するか、電源アダプターを接続して印刷してください。
プリンターが接続されているパソコンからの応答がありません。プリンターが接続されているパソコンで印刷状況を確認してください。	パソコンにつながれたプリンターがネットワーク上にある場合に表示されます。プリンターが接続されているパソコンで印刷状況を確認してください。

本ソフト使用時のトラブルについて

●「フィールドの枠と文字または図形、画像のデータ」が印刷時にずれたときは

フィールドの枠と文字または図形、画像のデータとずれが発生する場合があります。詳しくは、印刷プレビューでご確認してから、印刷してください。

●ビットマップや他の画像ファイルの読み込み時、または、印刷実行時にメモリー不足になったときは

BA-100で、画像フィールドにビットマップなどの画像ファイルを読み込もうとしたり、画像フィールドが登録されているレイアウトを印刷しようとするときに「実行するためのメモリーが不足しています」とメッセージが表示されることがあります。

この現象には2つの原因が考えられます。

第一の原因としては、メモリーが不足していることが考えられます。この場合は、他の実行中のプログラムを終了してからもう一度実行してみてください。

第二の原因としては、Windowsのディスプレイドライバーの問題が考えられます。ほとんどのディスプレイドライバーの最新版は、この問題を解決しているようですので詳細につきましては、お使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。

●読み込んだカラービットマップなどの画像が、印刷したときに黒くつぶれてしまうときは

「ビットマップの輝度が低い」ことが考えられます。

BA-100の「ペイント」または「ペイント系のソフト」で輝度も高い方向に調整してください。または2値化(色数 2色)して画像がつぶれないように調整してください。つぶれの度合いが少なくなることがあります。

●印刷中にテープがつまってソフトウェアがロックしたとき

ラベルテープを印刷中にテープがつまって、印刷時のエラーメッセージを表示しないまま操作が停止したときは、プリンターのACアダプターを外してプリンターの緑色のLED ランプが消えるか、液晶画面の表示が消えて本体電源が切れたことを確認します。次に、取扱説明書を参照してつまったテープを取り除きます。その後、再びACアダプターを接続してください。ソフトウェアは、印刷を中止して復帰します。もう一度印刷してください。それでも、印刷が正しくできない場合は、USBケーブルを抜き差ししてから、もう一度印刷してください。

●画像ファイルが読み込めないとき

以下の通り、読み込める画像ファイルの制限があります。

【画像サイズ】

読み込める画像の最大サイズは1,280×1,280ドットです。

【画像形式ごとの制限】

- BMP形式： RLE圧縮していない場合には以下のビット数の画像を読み込むことが可能です。
1,4,8,16,24,32
RLE圧縮している場合には以下のビット数の画像を読み込むことが可能です。
1,4,8
- DIB形式： RLE圧縮していない場合には以下のビット数の画像を読み込むことが可能です。
1,4,8,24
RLE圧縮している場合には以下のビット数の画像を読み込むことが可能です。
1,4,8

WMF形式： カラーディスプレイが256色の場合に、正しく印刷されない場合があります。
この場合は、市販の画像編集ソフト等を利用し、正しく印刷されない画像をBMP形式に変換してください。この変換した画像をレイアウトに挿入し、印刷プレビューで正しく表示されるのを確認してから印刷してください。

EMF形式： カラーディスプレイが256色の場合に、正しく印刷されない場合があります。
この場合は、市販の画像編集ソフト等を利用し、正しく印刷されない画像をBMP形式に変換してください。この変換した画像をレイアウトに挿入し、印刷プレビューで正しく表示されるのを確認してから印刷してください。

EPS形式： プレビュー付きの画像を読み込むことが可能です。

JPEG形式： YUV 4:4:4、4:2:2、4:1:1カラースペース及びグレースケール用のYUV4:0:0を読み込むことが可能です。

TIFF形式： 圧縮TIFF形式ファイルで保存されたデータを読み込むことはできません。
TIFF形式ファイルにはいくつかの標準的でないオプション仕様があり、ファイルによっては正しく表示、印刷できない場合があります。

Flash Pix (FPX)形式： 24ビットの画像を読み込むことが可能です。

Photo CD (PCD)形式： 24ビットの画像を読み込むことが可能です。

PICT形式： 4,8,24ビットの画像を読み込むことが可能です。

PNG形式： 4,8,16,24,32ビットの画像を読み込むことが可能です。

上記の形式ファイルのオプション仕様の詳細については、その形式ファイルを作成したソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

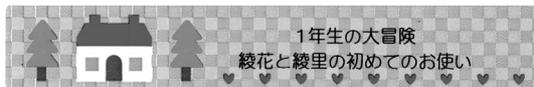
ファンシーテープ

- ファンシーテープが使用できる機種をお使いの場合は、別売のファンシーテープに印刷することができます。

テープカートリッジをセットする

■ファンシーテープカートリッジをセットする

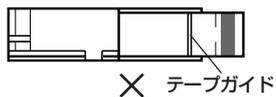
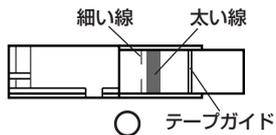
印字例



ファンシーテープカートリッジは別売です。

1 ファンシーテープのマーカーを合わせる。

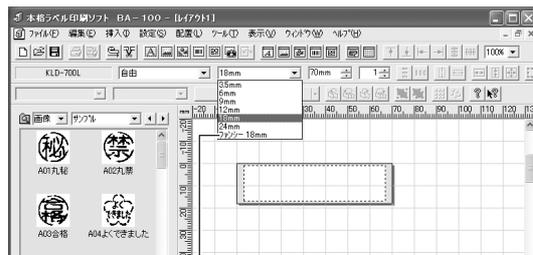
- 重要** ファンシーテープカートリッジを本体にセットするときは、テープ裏面のマーカーの位置がテープガイドの外側にならないようにしてください。
テープガイドの外側にマーカーがあると、一枚目には何も印刷されません。



- ## 2 ファンシーテープカートリッジを本体のネームランド用プリンターにセットする。
- お使いのプリンターの取扱説明書をご覧ください。

ラベルを作成する

それぞれのカートリッジに適したラベル幅を選択してください。



ファンシーテープカートリッジをセットしたときは、これを選択

- ラベルのプロパティ画面から選択することもできます。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2